

## 第4回四日市市大学構想策定委員会 議事要旨

### 1. 日時

令和5年12月15日（金）午後3時00分から午後5時00分まで

### 2. 場所

本部員会議室

### 3. 出席者

（策定委員会委員）

谷口 研二委員長、近藤 元博委員、加藤 真紀委員、種橋 潤治委員、堀 加奈委員、  
館 英次委員

（アドバイザー）

国立大学法人三重大学理事 吉岡 基、鈴鹿高等専門学校校長 竹茂 求

（四日市市）

荒木政策推進部長、渡辺政策推進部理事、矢澤政策推進課長、加藤政策推進課副参事

（事務局）

櫻井政策推進課付主幹、井上政策推進課主幹、河合政策推進課主幹

### 4. 議事要旨

#### (1) 四日市市に設置する大学について

##### ・四日市市大学設置に係る基本構想（素案）について

四日市市に設置する大学について、また、今までの委員会での審議をまとめた四日市市大学設置に係る基本構想の素案について、各委員にて審議。また、基本構想報告書（素案）を確認。（別添資料1）

#### 【以下委員会内における基本構想についての委員意見】

##### 1. 序章 2. 四日市市に設置する大学の目指す姿

・地域を中心としつつも、国際的な広がりがある大学が良い。

## 2. 第1章 1 (3) ②③大学の設置状況、整備水準

- ・今ある大学等の定員割れ等が起きていないか。もしも定員割れがあったとすると、三重県内の大学進学者に対し、県内大学等の入学定員に満たないことが流出超過を招いている要因の一つでもある。
- ・三重県には大学の入学定員が少ない。また一方に行き先がないというのは確かで、学部によってはそもそも理学がない、経済が少ないというデータがある。
- ・これら二つの要因が、結果的に県外流出を招いている。  
一つはその数の問題。もう一つは学生の質の問題。この数と質と両方の面で合わせて、やっぱり県外流出が増えているという結果。要するに行きたい学部がないから県外に行くという人もかなり多いと思う。

## 3. 序章「まちがキャンパスとなる大学」、第3章 大学の整備について

- ・ローカル 5G やアーバンスポーツ、図書館等、非常に夢のある素晴らしい計画であり、自治体の中でやろうとしていることと、大学の中に組み込まれているものを整理できるとよい。
- ・ニワミチをキャンパスに活用する、ワークスペースが中央通りに散らばっているみたいなのもあり得ると思う。
- ・キャンパスを街中というイメージでいくと、5G が繋がっていくので、学生が中央通りの木の下で授業を受けていることも良い。更に広がってまちと一体となった大学が良い。一定の管理区域は必要であったとしても、垣根がない大学の建物の作り方の形態に、街への広がりイメージを盛り込むとよい。
- ・図書館の中にガラス張りでグループ活動できるワーキングスペースがあり、それを市民も使えたり、市民の方も大学生が一生懸命勉強し合ったりとか教え合っている様子とかワークをしている様子を見ることができるようなシステムがあれば、市民の方にとっても愛着のある大学になる。地域と一緒に大学生を迎え入れる雰囲気醸成されると、今の小中高生にとっても身近な存在になると思う。
- ・小学校、中学校、高校と同じような建物や教室が大学にあるのではなく、第一印象・形態から違う建物であったり、高校生から大学に入る学生が、学びたいと思えることが非常に重要。
- ・フィンランドの例では、1階から4階までの全部の空間が見えて、それぞれ違う構造が見えて、そこで学生が勉強したり、教員が準備をしたりするのが見える。いろいろな形態が最近たくさんあるので事例を調査するとよい。

- ・京都の私立大学のレストランは地域の人に解放されており、敷居が高い大学のイメージが変わった事例などもある。
- ・四日市市民にとって、明るくて行きたいという雰囲気を作るために、オープンにする場所と、企業との共同研究を行う場所はセキュリティレベルを高くし登録者のみ入室可能とする等、目的に合わせた建物の設計を行うことができると良い。
- ・大学に学生の居場所をつくることにつながる。海外の大学ではカフェやベンチがあったりして、大学で結構長いこと居られるが、日本の大学でなかなか作りきれてないという問題がある。シンガポールの大学では、図書館の中にコーヒーショップがあると同時にピアノが置いてあり、学生が集まって来やすい雰囲気が作られており参考にできるとよい。
- ・留学生の受け入れは（大学での教育研究と併せて）宿舍の確保や学生寮が必要である。留学生が安心して住めるために、居住環境をある程度整理しなければならない。学ぶ環境に加え、生活環境の整備も意識する必要がある。

#### 4. 四日市市に設置する大学および人材養成の方針

- ・第1章の産業分野との関連で、海外との結びつきが必要であることは加えた方がよい。
- ・設置する大学の基本方針 v) 地域の項目に“市民”という言葉が入ると良い。

#### 5. 国際性の教育、英語教育、留学について

- ・国際化、留学、留学生といったキーワードはとても重要だが、留学生を英語で教育するのか、日本語で教育するのかは、大学設置計画でカリキュラム編成や運営体制を整えるのに重要である。
- ・高専にて、日本人学生とフィンランドの学生を協力させて、イノベーションマインドを育成するには、我々は何をやったらいいかという議論の中で、重要なキーワードは「オープンマインド」である。（大学の基本構想にも）オープンマインドというキーワードを入れるか検討すると良い。
- ・国際性を育む教育について、単なる英語の教育以外に結局一番効果的なのは、全員を海外のある期間に数か月、最低数ヶ月留学することである。
- ・設置する大学で学生全員を海外体験をするっていうことを打ち出すことができればそれは魅力的だと思う。
- ・海外留学時は休学させずに単位認定するという仕組みを作っておくと良い。海外インターンシップも活用できると良い。

- ・海外留学する際は、単なる語学留学ではなく、一定の専門性を持ち、専門の勉強を英語でできることが重要である。大学3、4年生になり、一定の専門性・専門分野に関して議論できるだけの英語力を1、2年生で身に付ける必要がある。
- ・一方で、1年生2年生で英語を学びその後忘れてしまうことではなく、学び続ける姿勢、ライフ・ロング・ラーニング、学び直しが重要である。
- ・留学は、一定の専門性を持ったうえで、海外に送る考え方もあるが、逆に高校卒業してすぐに海外留学し、留学での気づきを、その後の大学4年間に活かし深めることも重要となる。

## 6. 大学の基本方針について

- ・「多様性を重視し、既設大学にはない特色」について、既設大学にはない特色とは何かあまり議論をされていないのではないか。ただし（基本構想の段階において）特色についてはこの場で議論すべきか否かは判断が難しいと思うので、引き続き議論していく必要がある。

## 7. 人材養成の方針 予測不可能な時代

- ・AI人工知能はすごく大きな影響をもたらしかねないと思うので、どこかでそれを意識した記載があると良い。
- ・チャット GPT は、全国の教育機関や文科省が色々議論をしている段階であり、変化を前提にできることをやる方針で取り組まないといけない。
- ・コンピューターの能力が人間を追い越すシンギュラリティが2040年頃に想定されていることについても想定しておくといよい。

## 8. 想定される教育研究分野

- ・四日市市という非常に狭いエリアに限定する必要はないと思う。
- ・大学の教育研究分野は、四日市市の産業構造を考えて対応する必要があると思う。
- ・技術者・エンジニアだけではなく、ビジネスに係る人を広く含めて、様々な人材が混ざり、議論しながら仕事を進めることは、今の産業界の一般的な傾向であることから、「異分野融合」をキーワードに入れることも検討すると良い。
- ・東京工業大学を初めとして、リベラルアーツは理工系でもかなり重視されている。異分野融合とも関係すると思うが、人文社会系の知識をベースとして加えても良いと思う。

## 9. 優秀な教員・研究者を集めるために

- ・「異分野融合」は良い教員を集めるためにも、良いキーワードになるのではないか。
- ・大学設置について、良い生徒を集めるためには、良い教員に来てもらうということもある。良い教員に来ていただければ、結果として良い研究者が揃う。
- ・教員をどのように評価するのかを、かなり考えないといけない。評価体制は、論文評価だけでなく、実績評価を加えることをどう具現化できるかという事が重要。
- ・どうすれば優秀な研究者が集まるかについて、例えば今、大学教員、特に若手の優秀な研究者が困っているのは、任期がついているのでポストが不安定だということである。その不安定な部分を解消する事で、今、地方に若手の優秀な研究者が行きづらいところを解消するポイントになる議論もしている。
- ・問題は、アドミニストレーター（管理者）の仕事が多く、教育と研究以外の時間が長い。90パーセント以上の時間を研究に使うことができる等の魅力的な取り組みを行い、その取り組みを伝えることができれば優秀な人を集めることができる可能性がある。
- ・研究者をやる上で色々な雑用に追われる事が多い。例えば、国から助成金を貰うと監査のために、全部細かな資料を作らなければならない。そのような業務をカバーしてくれるような職員を準備することも研究者を呼び込む手の一つだと考える。またそれらをAIで置き換えることも良いと思う。
- ・教員がここに来たいという大学になるためには、教員へのサポート体制を増やすと良いと思う。

## 10. 大学の教育研究方針 全体を通して

- ・地域企業へのヒアリングや調査の中で、どの企業も探求心や、課題を自分で設定して、その課題に向けてしっかり深く掘り下げて研究する力が重要であることを重要視している印象であったので、大学の教育研究方針として明記してほしい。
- ・最近では大学によっては、起業家精神を教えて、卒業した後に自分たちで会社を起こせるという風なところまで提供する必要があるという話があり、教育研究方針に盛り込むか検討できると良い。
- ・起業するアイデアがあった時に、様々なことが分からないケースがある。ビジネスに係る人や、違う専門で関係する人とチームを作り、連携しないといけない。連携

して物事をやるというやり方を、ビジネスの面でも起業を含めて教育すべきである。

- ・大学に眠っているシーズを事業化するという動きもあり、例えば、名古屋工業大学は先端技術共創機構と、名古屋工業大学共創基盤（NITEP）を作り、起業や事業化できるような研究の支援をしている。
- ・企業との共同研究は相手が一つで、下手すると企業からの請負を大学がやってるという感覚があるが、むしろ大学の方が主体的に自分たちの持っているシーズを外に出していくための仕組みを作ることが重要。企業から言われた内容だけを研究している先生方も多いが、自分たちの研究内容を外に出していく、研究組織として国やいろんな企業からお金を取りながら、そういう活動を広げていくというのも一つ。
- ・人材をここで育てて、ここで排出したい話について、企業から見れば、ここで企業活動するためのサポートとなる人材と並行した研究という二つがあり、やはり大学であると思う。

以上

第4回 四日市市大学構想策定委員会 事項書

日時：令和5年12月15日（金）15時00分～  
場所：市役所6階本部員会議室

1. 四日市市に設置する大学について

- ・四日市市大学設置に係る基本構想（素案）について . . . . . 資料1

2. その他

3. 今後のスケジュールについて

第5回：令和6年3月8日（金） 15：00～17：00

以上

(素案)

# 四日市市大学設置に係る基本構想

令和 6 年 3 月

四日市市

# 目次

---

序章 基本構想策定に向けて.....	1
1. 基本構想策定の目的 .....	1
2. 四日市市に設置する大学の目指す姿 .....	2
(1) 人材育成.....	2
(2) 地域・他大学等との連携.....	2
(3) 駅前の立地を活かし、まちがキャンパスとなる大学.....	2
第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況.....	4
1. 四日市市の現状.....	4
(1) 人口.....	4
(2) 産業・雇用 .....	4
(3) 高等学校および大学等の高等教育機関の設置状況.....	12
2. 全国的な大学設置をめぐる動向と調査分析 .....	16
(1) 大学の現状と課題.....	16
(2) 全国、三重県の大学進学の実況と動向 .....	26
第2章 大学設置の検討に向けたニーズ等調査.....	31
1. 市内および北勢地域の企業を対象としたアンケート.....	31
2. 市内および北勢地域の企業の若手社員を対象としたアンケート .....	31
3. 市内企業ヒアリング .....	31
4. 大学生ヒアリング .....	31
5. 近隣高校進路指導教員ヒアリングについて.....	31
6. 他大学調査等について.....	31
7. 「大学・高専機能強化支援事業」選定結果等について.....	31
第3章 大学設置に関する基本的な方針 .....	32
1. 大学の整備について .....	32
(1) 整備エリアについて.....	32
(2) 本エリアにおいて整備を検討している機能 .....	32
(3) 校地校舎・設置形態等について .....	33
2. 四日市市に設置する大学および人材養成の方針 .....	34
(1) 設置する大学の基本方針 .....	34

# 目 次

---

(2) 人材養成の方針 .....	35
(3) 想定される教育研究分野 .....	36
3. 四日市市に設置する大学の教育研究方針 .....	36

## 別添資料

- ① 四日市市および北勢地域企業および、企業の若手社員に対するアンケート調査  
報告書
- ② 企業ヒアリング報告書
- ③ 学生ヒアリング報告書
- ④ 大学視察等調査報告書

### 序章 基本構想策定に向けて

#### 1. 基本構想策定の目的

超高齢化・少子化に伴う人口減少社会に直面し、東京への一極集中が進む日本において、持続可能なまちづくりへの取り組みが求められている。

本市では、現在、令和2年度から10年間の総合計画において「ゼロからイチを生み出すちから イチから未来を四日市」を掲げている。ものづくりのまちとして、ゼロからイチ、すなわち無から有を生み出すちからは、本市の礎であり、変化の激しい時代において、東海エリアにおける西の中核都市として存在感を示し、本市がさらなる飛躍を遂げるために欠かすことのできない「財産」である。

このちからを生み出す源泉は「人」である。今後も、ものづくりのまちとして発展するために、無から有を生み出すちからを継続させるには、「人材」を養成することが欠かせない。

しかしながら、三重県内における大学収容力は低く、高校生が卒業後の進学先として県外へ流出する割合が高い状況にある。特に四日市市の産業と密接に結び付く理工系分野の学部の定員は全国や他東海地域平均と比較して低く、県内で学ぶ環境が不足している。

そのような中、四日市市産業界からは、かねてより大学の設置にむけた意欲的な提言がなされてきた。

平成26年3月、産業界が参画する四日市市産業活性化戦略会議より「四日市市産業活性化戦略に関する提言書」が提出され、この中で産業界として理系の大学設置が必要であるとの提言があった。

さらに、令和4年8月四日市商工会議所からの要望書「地域の産業人材を育てる大学の設置について」が提出された。この地域の最大の強みは多様な産業の集積であり、各企業をはじめ、地域産業全体の発展に向け、以下の機能・役割を担う大学の設置を要望された。

1. 様々な産業が集積する四日市市の特性を踏まえ、地域の人材ニーズに応じた大学
2. 社会が大きな変革を続けるなか、製造業の技術革新を支える人材育成や進展著しい情報・通信分野の人材育成を担える大学
3. 地域の産学連携・研究の拠点として、地域や地域企業が抱える課題を解決し、イノベーションを創出する大学
4. スタートアップを志向する人材育成や大学発ベンチャー企業の起業等、新産業創出の原動力となりえる大学

- 5.地域の企業が、急激な技術革新の進展や市場の変化に対応するため、必要な知識や技能を習得できるようリカレント教育を提供できる大学
- 6.多くの若者を県外・市外から呼び込み、中心市街地の活性化や賑わい創出に資する大学

これらの状況を踏まえ、JR 四日市駅前の周辺ターミナル空間の整備を契機に、今般、JR 四日市駅前への大学設置を検討するに至った。

この度、本市が設置する大学の大きな方針を策定するために、令和5年5月から令和6年3月までに5回の有識者会議を開催し、専門的かつ客観的な見地から意見を聴取した。また人材需要等のアンケート調査や、企業や大学生等へのヒアリングを行い、地域社会のニーズを把握し、他大学や高等教育の動向等について調査を行った。

本基本構想はこれらの総合的な調査を基に多角的な視点から検討を行い、課題や実現可能性を明らかにし、本市の発展に資する大学基本構想を策定するものである。

## 2. 四日市市に設置する大学の目指す姿

### (1) 人材育成

国際的な視野のもと多様性を柔軟に受容し、課題の解決に向かう探求心と行動力を育むことにより、企業との共同研究に参画できる高度な能力を有し、イノベーションを創出できる人材を育成する。

### (2) 地域・他大学等との連携

地域企業と連携した共同プロジェクト型教育をはじめ、県内及び東海地域の企業や自治体及び大学等高等教育機関等と緊密に連携した教育研究を行う。

### (3) 駅前の立地を活かし、まちがキャンパスとなる大学

中心市街地再開発プロジェクトにより今後整備される施設等を活用し、四日市のまちがキャンパスとなる大学を実現するとともに、北勢地域における交通の利便性や産業集積といった立地の特徴を踏まえ、産業界と教育をつなぐ拠点として存在感を示す。

#### 【参考：委員会内での発言】

・ 地域産業界からの要望：地域の最大の強みである産業集積を活かした大学設置

1.様々な産業が集積する四日市市の特性を踏まえ、地域の人材ニーズに応じた大学

2.社会が大きな変革を続ける中、製造業の技術革新を支える人材育成や、進展著しい情報通信分野の人材育成を担えるような大学

3.地域の産学連携研究の拠点として、イノベーションの創出をする大学

4.スタートアップを志向する人材育成や、大学発ベンチャー企業と新産業創造・創出の原動となりえる大学

5.地域の企業が、急激な技術革新の進展や市場の変化に対応するため、必要な知識や技能を習得できるようリカレント教育を提供できる大学

6.多くの若者を県外・市外から呼び込み、中心市街地の活性化や賑わい創出に資する大学

・実際に企業集積があり、ハンズオン教育として教育現場で実際のものに触れるということは価値を持つ。

・地域と連携してイノベーションを起こすシステムを作る。高度かつ実践的に企業と連携できることが重要。

・地域産業界と実践的に連携してイノベーションを起こすこと。産業界からのニーズに対応し、四日市市の産業構造に合った人材、産学連携の加速、産学連携のプラットフォームの形成。

・四日市市の産業界が今までの日本の教育を変えて新しい大学を作りたいという声を上げる形にすれば、「四日市」に設置する理念となる。

・地域産業界で働く社会人のリカレント教育

・北勢地域には、比較的のものづくり産業が多いため、この北勢エリアで学生を集めてリカレント教育ができるのは、四日市市が一番便利

・三重県内の連携の拠点としての大学。三重大学や県内の大学との連携、県内自治体や企業との連携の拠点

・県内の小中学校、高校との連携、企業体験、ものづくり教育の体験を通した幼小年期からの継続した理系教育の拠点

## 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

### 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

#### 1. 四日市市の現状

##### (1) 人口

四日市市の直近5年の人口動態について、「人口増減」は平成30年を除き、減少傾向にある。

「人口増減」の内訳として、出生数から死亡数を除いた「自然増減」について、死亡数が出生数を上回る自然減の状況が継続している。また転入数から転出数を除いた「社会増減」について、令和3年に転出超過となり「社会減」となったが、他の年度は、転入が転出を上回っており、全体として「社会増」の状況である。

(単位：人、% △はマイナスを表す)

年次	総人口 (※注1)	人口増減 (※注2)		自然増減 (※注2)				社会増減 (※注2)			
		増減数	増減率	出生	死亡	増減数	増減率	転入	転出	増減数	増減率
平成30年	312,163	27	0.01%	2,403	3,193	△ 790	△ 0.25%	13,431	12,614	817	0.26%
令和元年	312,190	△ 639	△ 0.20%	2,377	3,166	△ 789	△ 0.25%	13,437	13,287	150	0.05%
令和2年	311,551	△ 204	△ 0.07%	2,197	3,177	△ 980	△ 0.31%	12,278	11,502	776	0.25%
令和3年	311,347	△ 1,522	△ 0.49%	2,243	3,338	△ 1,095	△ 0.35%	11,198	11,625	△ 427	-0.14%
令和4年	309,825	△ 106	△ 0.03%	2,195	3,564	△ 1,369	△ 0.44%	14,561	13,298	1,263	0.41%
令和5年	309,719										

※注1：総人口は各年次における1月1日時点の人口である。

※注2：人口増減、自然増減及び社会増減は、住民基本台帳登録者の増減数（各年1月から12月までの各月の累計）である。

##### (2) 産業・雇用

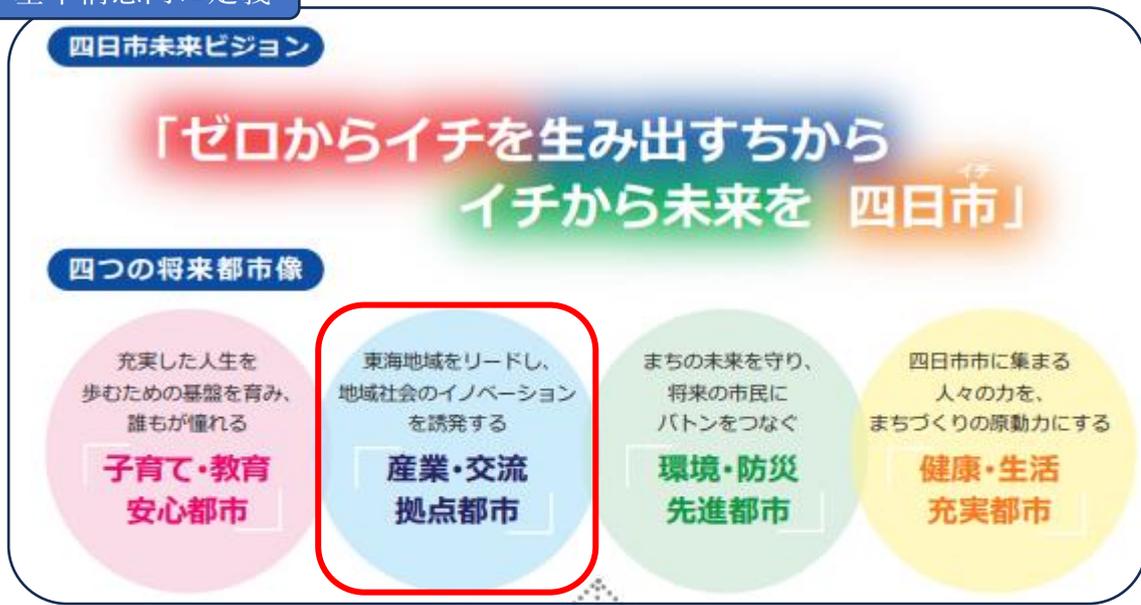
###### ①四日市市の産業分野に関する指針

四日市市では、市の将来を見据えた総合的・計画的なまちづくりの指針となる「四日市市総合計画（2020年度～2029年度）」（以下「総合計画」）を策定している。総合計画では今後目指すべき将来都市像の一つに「産業・交流拠点都市」を掲げ、「都市機能の集積と高次化、近未来技術の社会実装を進め、人の交流が仕事や魅力を生み出す好循環のまちづくりを目指す」こととしている。

また、この都市像を実現するために、特に力を入れて取り組むべき重点的横断戦略プラン、及び着実に取り組むべき分野別基本政策においても、産業分野における取り組みを位置づけている。

【四日市市総合計画（2020～2029）】

基本構想内に定義



具体化・実現

基本計画内に定義



   : 産業に関する事項

# 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

産業・交流拠点都市に向けた重点的横断戦略プランでは、「AI、IoT等の新技術の活用、人材育成」や、「WE DO 四日市中央通り」において、人材育成やまちの活性化に資する施策を定めている。

## 【プロジェクト 01】

No. 2 AI、IoT等の新技術の活用、人材育成
産業 + ICT

**目的** 製造業における人手不足などの課題を解決し、業務の効率化を図るため  
**AI、IoT等の技術を活用できる人材を育成し、生産性を向上させる**

**具体的取組** ① AI、IoT、ビッグデータの導入事例の紹介や利活用に関する研修を実施します。  
 ② 導入に向けた産学官による調査研究を行います。

The diagram illustrates a strategic framework for AI and IoT utilization. It features a central 'BIG DATA' icon connected to various data sources. To the right, a 'ビジネス利活用' (Business Utilization) box includes icons for a microscope, a printer, a laptop, a car, and a person at a desk. Below this are two main pillars: 'AI・IoT 活用企画力' (AI・IoT Business Planning) and 'AI 開発・運用力' (AI Development/Operability). The first pillar includes 'AI・IoT ビジネス創造' (AI・IoT Business Creation), 'AI・IoT ビジネス戦略' (AI・IoT Business Strategy), and 'AI・IoT ビジネス法務入門' (AI・IoT Business Law Introduction). The second pillar includes '機械学習全般' (General Machine Learning), 'クラウド' (Cloud), '統計・データ分析' (Statistics/Data Analysis), and 'プログラミング' (Programming). At the bottom, a green box labeled 'AI 活用基礎知識' (AI Basic Knowledge) is connected to the main pillars.

## 【プロジェクト 02】

No. 1 WE DO 四日市中央通り
交通・にぎわい + 産業 + 健康

**目的** JR四日市駅及び近鉄四日市駅の駅前広場や歩行空間等の整備・高次都市機能の集積で、  
**居心地が良く歩きたくなる魅力的なまちなかを形成する**

**具体的取組** ① にぎわい創出に向けた市の玄関口に相応しい駅前空間の整備に取り組みます。  
 ② 駅前広場や歩行空間等の整備による交通結節機能強化を図ります。  
 ③ 近鉄四日市駅ー JR四日市駅間等において、新たな技術を取り入れた交通手段の実現に関係者と取り組めます。  
 ④ 新図書館を中心とした複合的な機能をあわせ持つ拠点施設立地など広域的な都市機能を集積するとともに、再開発など民間投資の誘導を図ります。

**Walkable** 歩きたくなる  
歩行者にとって安全で快適な歩行空間を確保し、歩行者の歩行意欲を高める。

**Eye level** 目線レベル  
歩行者の目線レベルに合わせた歩行空間を整備し、歩行者の歩行意欲を高める。

**Diversity** 多様な人々の集まる場所  
多様な人々の集まる場所を整備し、歩行者の歩行意欲を高める。

**Open** 開放的な空間  
開放的な空間を整備し、歩行者の歩行意欲を高める。

駅前広場や歩行空間等の整備 (イメージ)

国土交通省とのパートナーシップのもと、健康づくりにもつながるウォカブルなまちづくりを推進します。まちなかを車中心からひと中心の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと変えます。

また分野別基本政策においても、「AI、IoT等の新技術の導入、人材の育成」を定めている。特に製造業は今後IoT等の新技術の導入が進み、入手したデータを有効活用できるデータサイエンティスト等の育成が必要となることから、大学等関係機関と連携しながら、AI、IoT等の新技術の導入や人材育成の支援に取り組み、さらにデータ解析等を得意とするIT企業の誘致に向けた新たな支援策についても検討を行うこととしている。

また、「中心市街地の活性化」に向けては、JR四日市駅前の駅前広場や歩道、公園の高質化等の整備を進めるとともに、中心市街地における再開発など民間投資の誘導を図ることとしている。

**基本的政策6**

## 新産業の創出と 既存産業の活性化

【SDGs17の目標】

5 ジェンダー平等を 実現しよう	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	10 人や国の不平等 をなくそう
---------------------	------------------	-----------------------	---------------------

- 1 企業・事業誘致、投資促進
- 2 AI、IoT等の新技術の導入、人材の育成
- 3 中小企業・地場産業の振興
- 4 新たな価値を創出するサービス産業や起業家への支援
- 5 だれもが働きやすい環境づくりへの取組

**基本的政策10**

## にぎわいの創出と買い物拠点の再生

【SDGs17の目標】

8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	11 住み続けられる まちづくりを	1 中心市街地の活性化
------------------	-----------------------	----------------------	-------------

- 1 中心市街地の活性化
- 2 買い物拠点の維持・再生

## 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

### ②四日市市の産業の状況

#### i) 製造品出荷額等の市町村ランキング

四日市市には石油・化学、半導体、自動車、食品など多様な工業が集積しており、製造品出荷額等は3兆1810億円（2022年経済構造実態調査：2021年実績）で全国の都市の中で第10位と、日本を代表する工業都市の一つとなっている。

順位	市区町村	人口	製造品出荷額等 (2022年経済構造実態調査)
1	豊田市	42万人	14兆9758億円
2	倉敷市	48万人	4兆6185億円
3	市原市	27万人	4兆2501億円
4	堺市	82万人	4兆2306億円
5	横浜市	377万人	4兆1533億円
6	大阪市	276万人	4兆0818億円
7	川崎市	154万人	3兆9571億円
8	神戸市	151万人	3兆4209億円
9	名古屋市	232万人	3兆3553億円
<b>10</b>	<b>四日市市</b>	<b>31万人</b>	<b>3兆1810億円</b>
11	大分市	48万人	3兆1757億円
12	広島市	118万人	2兆7762億円
13	北九州市	92万人	2兆6289億円
14	京都市	145万人	2兆6207億円
15	安城市	19万人	2兆5921億円

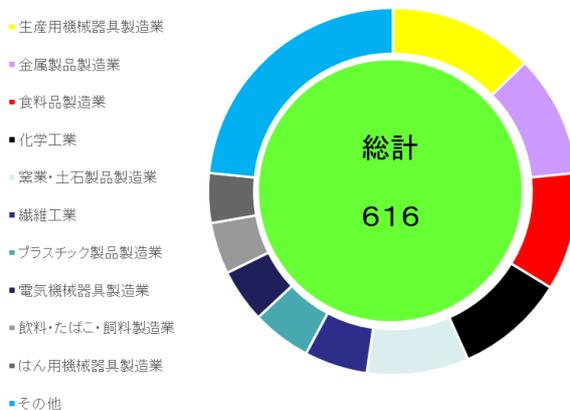
出典：2022年経済構造実態調査による2021年実績

## 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

### ii) 事業所数（製造業産業別（中分類））

四日市市の事業者数は、616社であり、生産用機械器具、金属製品、食料品、化学の順に事業所の数が多い。

		事業所数	%
	四日市市 計	616	100%
1	生産用機械器具	78	13%
2	金属製品	66	11%
3	食料品	64	10%
4	化学	59	10%
5	窯業・土石製品	55	9%
6	繊維	34	5%
7	プラスチック製品	32	5%
8	電気機械器具	29	5%
9	飲料・たばこ	28	5%
10	はん用機械器具	27	4%
	その他(小計)	118	23%

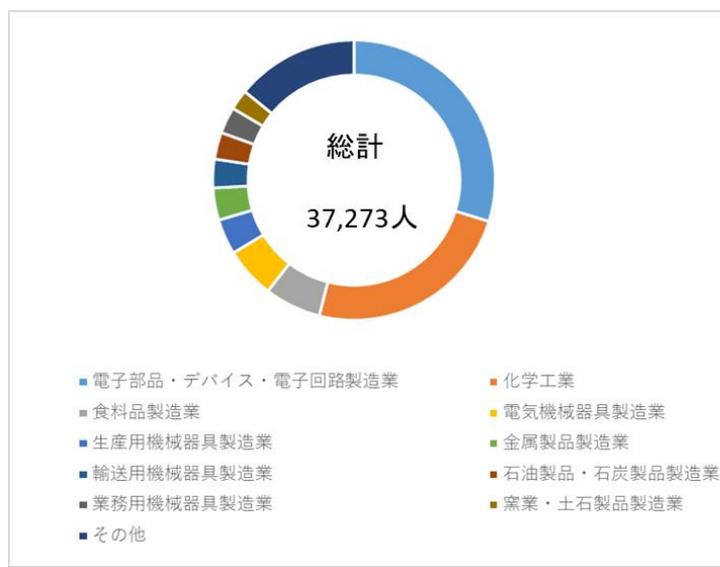


出典：2022年経済構造実態調査による2021年実績

### iii) 事業員数（製造業産業別（中分類））

四日市市は、電子部品・デバイス、化学、食料品の順に従業者数が多くなっており、半導体をはじめとする電子・デバイス、コンビナート地区に立地する石油化学関連における従業員が多くなっている。

		従業員数	%
	四日市市 計	37,273	100%
1	電子部品・デバイス	11,096	30%
2	化学工業	9,024	24%
3	食料品	2,408	6%
4	電気機械器具	2,186	6%
5	生産用機械器具	1,524	4%
6	金属製品	1,386	4%
7	輸送用機械器具	1,234	3%
8	石油製品・石炭製品	1,155	3%
9	業務用機械器具	1,140	3%
10	窯業・土石製品	872	2%
	その他(小計)	5,248	14%



出典：2022年経済構造実態調査による2021年実績

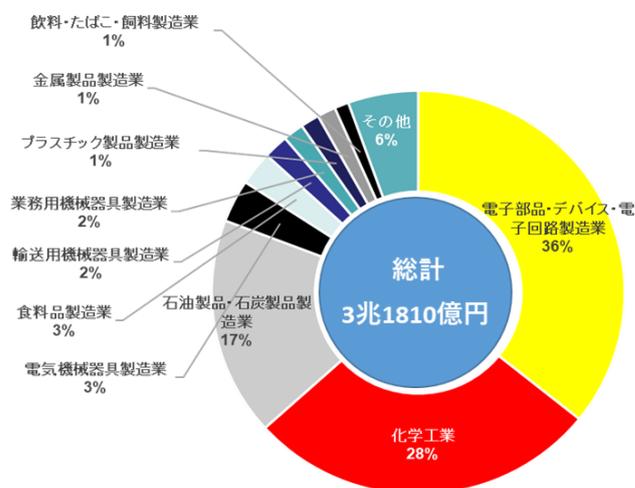
## 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

### iv) 製造品出荷額等

#### ①内訳

四日市市の製造品出荷額等の合計は、3兆1810億円であり、電子・デバイス、化学、石油・石炭、電気機械の順に製造品出荷額等が高くなっている。特に半導体をはじめとする電子・デバイス、コンビナート地区に立地する石油化学関連からの製造品出荷額等が多くを占めている。

		製造品出荷額等	%
	四日市市 計	3兆1810億円	100%
1	電子・デバイス	1兆1380億円	36%
2	化学	8758億円	28%
3	石油・石炭	5566億円	17%
4	電気機械	1084億円	3%
5	食料品	857億円	3%
6	輸送用機械	618億円	2%
7	業務用機械	517億円	2%
8	プラスチック	468億円	1%
9	金属	458億円	1%
10	飲料・たばこ	356億円	1%
	その他(小計)	1749億円	6%



出典：2022年経済構造実態調査による2021年実績

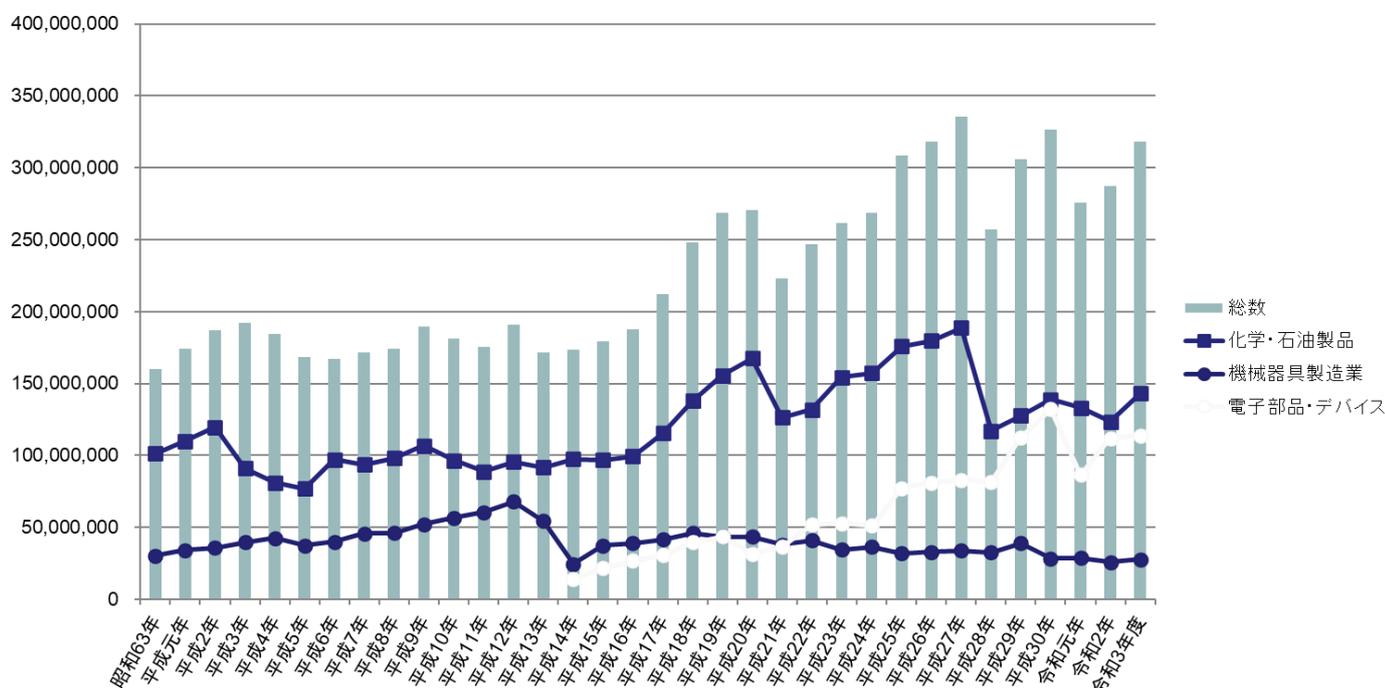
②推移

製造品出荷額等全体は、平成14年以降順調に額を伸ばしており、平成21年はリーマンショック等による影響により約18%減少したものの、その後回復傾向にある。

化学・石油製品の製造品出荷額等は、平成16年以降増加傾向にあったが、平成21年、平成28年は大幅に減少した。

機械器具製造業の製造品出荷額等は、この10年程度横ばいで推移している。

電子部品・デバイスの製造品出荷額等は、機械器具製造業から分割された平成14年以降に右肩上がりに額を伸ばし、平成20年は約3割減少したが、その後は順調に額を伸ばしている。



出典：2022年経済構造実態調査による2021年実績

上記の図は差し替え予定です。

## 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

### (3) 高等学校および大学等の高等教育機関の設置状況

#### ①高等学校の設置状況

三重県北勢地域の全日制課程の高等学校は計27校（県立22校、私立5校）である。

#### ○三重県北勢地域高等学校（全日制）一覧

No.	区分	学校名	学科・コース名
1	県立	桑名北	普通
2	県立	桑名	普通 理数 衛生看護
3	県立	桑名西	普通
4	県立	桑名工業	工業 機械 材料技術 電気 電子
5	県立	いなべ総合学園	総合学科
6	県立	朝明	普通 ふくし
7	県立	川越	普通 国際文理
8	県立	四日市	普通 国際科学コース
9	県立	四日市南	普通 数理科学コース
10	県立	四日市西	普通 比較文化・歴史コース 数理情報コース
11	県立	四日市四郷	普通 スポーツ科学コース
12	県立	四日市農芸	農業 農業科学 食品科学 環境造園 家庭 生活文化
13	県立	四日市工業 ※	工業 物質工学 機械 電子機械 電気 電子工学 建築 自動車

No.	区分	学校名	学科・コース名
14	県立	四日市中央工業	工業 機械 電気 化学工学 都市工学 設備システム
15	県立	四日市商業	商業 商業 情報マネジメント
16	県立	菰野	普通
17	県立	石薬師	普通
18	県立	神戸	普通 理数
19	県立	飯野	応用デザイン 英語コミュニケーション
20	県立	白子	普通 文化教養(吹奏楽)コース 家庭 生活創造
21	県立	稲生	普通 体育
22	県立	亀山	普通 情報 システムメディア 家庭 総合生活
23	私立	津田学園	普通
24	私立	暁	普通
25	私立	四日市マリノール学院	普通
26	私立	海星	普通
27	私立	鈴鹿	普通

※四日市工業高校は卒業後の2年制課程のものづくり創造専攻科有り

出典：県立高校：三重県教育委員会ホームページ内、三重県立高等学校案内より

私立高校：三重県庁環境生活部私学課ホームページ、私立高等学校一覧より

## 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

三重県北勢地域高等学校全日制および定時制の卒業生の状況（令和4年度）について、高校卒業生数 6,675 名（公立 5,383 名、私立 1,292 名）の内、大学進学者は 3,197 名（公立 2,315 名、私立 882 名）であり、大学進学率は 47.9%である。三重県全体の大学進学率 48.6%と比して若干低い。

全国大学進学率は、一部算出する条件が異なるが、全国平均は 56.6%であり、三重県は全国比で低位であることから、北勢地域も同様の傾向にあると考えられる。

### ○令和4年度 三重県北勢地域高等学校(全日制・定時制)卒業生数、大学進学者数及び大学進学率

	北勢	(北勢内訳)		三重県
		公立	私立	
卒業生	6,675名	5,383名	1,292名	14,607名
大学進学者 (学部)	3,197名	2,315名	882名	7,097名
大学進学率 (学部)	47.9%	43.0%	68.3%	48.6%

(出典：令和4年度学校基本調査（三重県分） 三重県統計データライブラリより)

### ○令和4年度大学進学率

	三重県	全国
18歳人口	16,894	1,121,285
大学進学者	7,884	635,156
大学進学率	46.7%	56.6%

注:18歳人口=3年前の中学校卒業生数  
(中等教育学校前期課程修了者を含む)

注:大学進学者は過年度卒業生等を含む

(出典：令和4年度学校基本調査報告書（文部科学省）より)

## 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

### ②大学の設置状況

三重県内の大学は国立大学1校、公立大学1校、私立大学5校であり、高専は国立高専1校である。入学定員の合計は3,454名（国立大1,310人、公立大100人、私立大1,820人、国立高専224名）である。

#### 【国】 三重大学

学部	学科	入学定員	市区町村
人文学部	文化学科	92	津市
	法律経済学科	153	
教育学部	学校教育教員養成課程	200	
医学部	医学科	125	
	看護学科	80	
工学部	総合工学科	400	
	機械工学コース		
	電気工学コース		
	応用化学コース		
	建築学コース		
	情報工学コース		
総合工学コース(1年次のみ)			
生物資源学部	資源循環学科	70	
	共生環境学科	70	
	生物圏生命化学科	80	
	海洋生物資源学科	40	
	合計	1,310	

#### 【公】 三重県立看護大学

学部	学科	入学定員	市区町村
看護学部	看護学科	100	津市
	合計	100	

#### 【私】 皇學館大学

学部	学科	入学定員	市区町村
文学部	神道学科	60	伊勢市
	国文学科	80	
	国史学科	80	
	コミュニケーション学科	80	
	教育学科	200	
現代日本社会学部	現代日本社会学科	120	
	合計	620	

#### 【私】 鈴鹿医療科学大学

学部	学科	入学定員	市区町村
保健衛生学部	放射線技術科学科	100	鈴鹿市
	医療栄養学科	90	
	リハビリテーション学科	80	
	医療福祉学科	60	
	鍼灸カイロ学科	30	
	救急救命学科	40	
医用工学部	臨床工学科	40	
	医療健康IT・デザイン学科	40	
薬学部	薬学科	100	
看護学部	看護学科	100	
	合計	680	

#### 【私】 鈴鹿大学

学部	学科	入学定員	市区町村
国際地域学部	国際地域学科	120	鈴鹿市
こども教育学部	こども教育学科	50	
	合計	170	

#### 【私】 四日市大学

学部	学科	入学定員	市区町村
環境情報学部	環境情報学科	70	四日市市
	環境科学専攻		
	メディア情報専攻		
総合政策学部	総合政策学科	130	
	経営戦略専攻		
	公共政策専攻		
	人文社会専攻		
	合計	200	

#### 【私】 四日市看護医療大学

学部	学科	入学定員	市区町村
看護医療学部	看護学科	100	四日市市
	臨床検査学科	50	
	合計	150	

#### 【国】 鈴鹿工業高等専門学校

学部	学科	入学定員	市区町村
本科（専門学科）	機械工学科	40	鈴鹿市
	電気電子工学科	40	
	電子情報工学科	40	
	生物応用化学科	40	
	材料工学科	40	
専攻科	総合イノベーション工学専攻	24	
	環境資源コース		
	IT・IT機能創成コース		
	IT・ITテクノロジーコース		
	合計	224	

大学・高専入学定員合計 3,454

**本項は、高専2校を追加し、併せて文章を修正する予定です。**

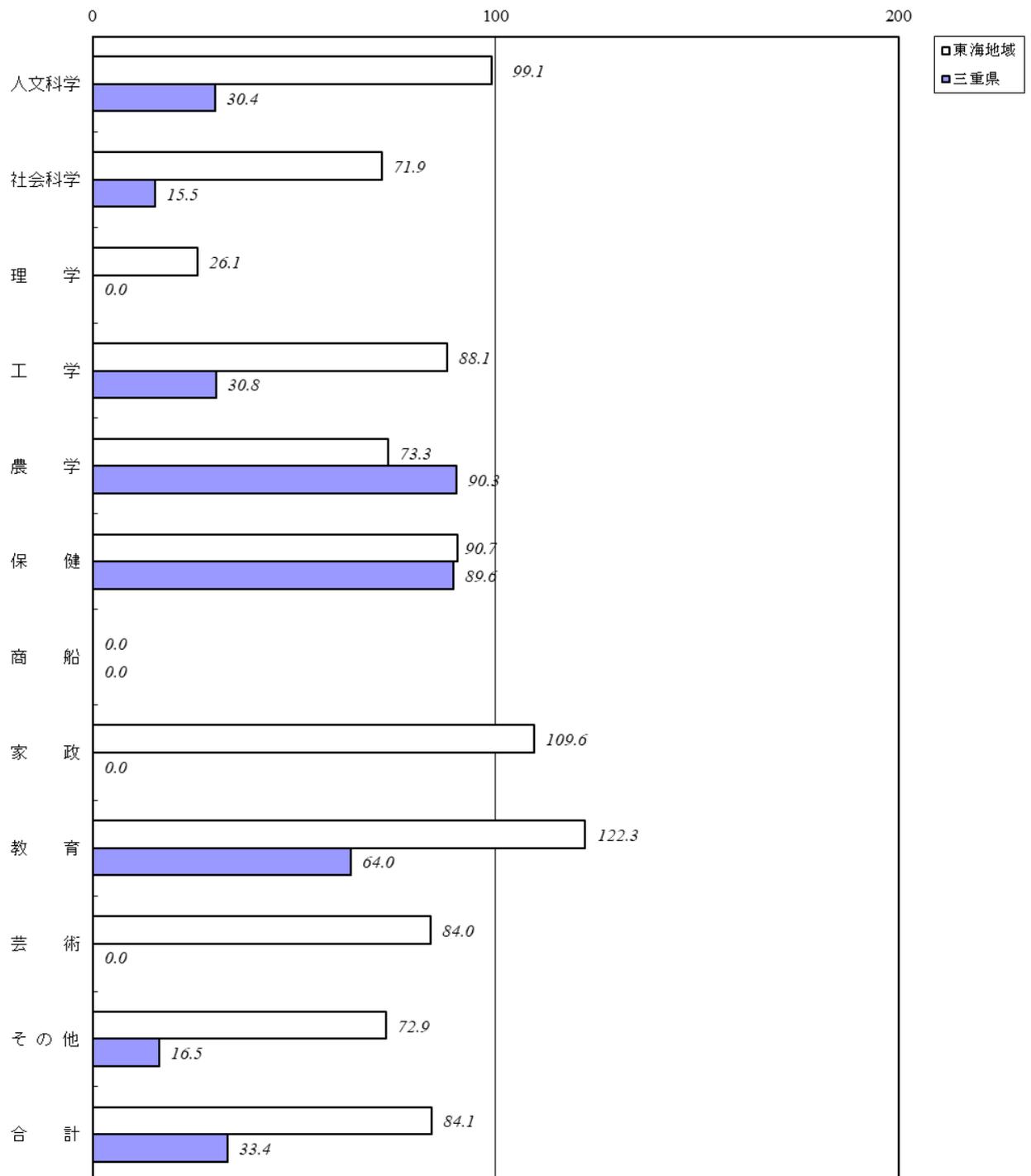
（出典：2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第211号）参考資料集より）

上記①より三重県全体の大学進学者は7,884名（文部科学省大学進学率より）である一方、②より三重県全体の大学・高専入学定員は3,454名である。このことから、三重県内の大学進学者に対し、県内大学等の入学定員が半数に満たない。このことが流出超過を招いている要因の一つである。（P30図、参照）

③大学の整備水準

三重県における大学の専門分野別整備水準（令和3年度）について、理学分野の学部は県内に存在しておらず、社会科学、工学の分野も全国および他東海地域（愛知県、岐阜県、三重県合計）平均と比較し低位である。

●図表 三重県における大学の専門分野別整備水準（令和3年度）



(注)18歳人口1,000人当たりの専門分野別大学入学定員について、全国を100.0%としたときの値。

出典：令和3年度「全国大学一覧」「学校基本調査報告書」（文部科学省）より作成

# 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

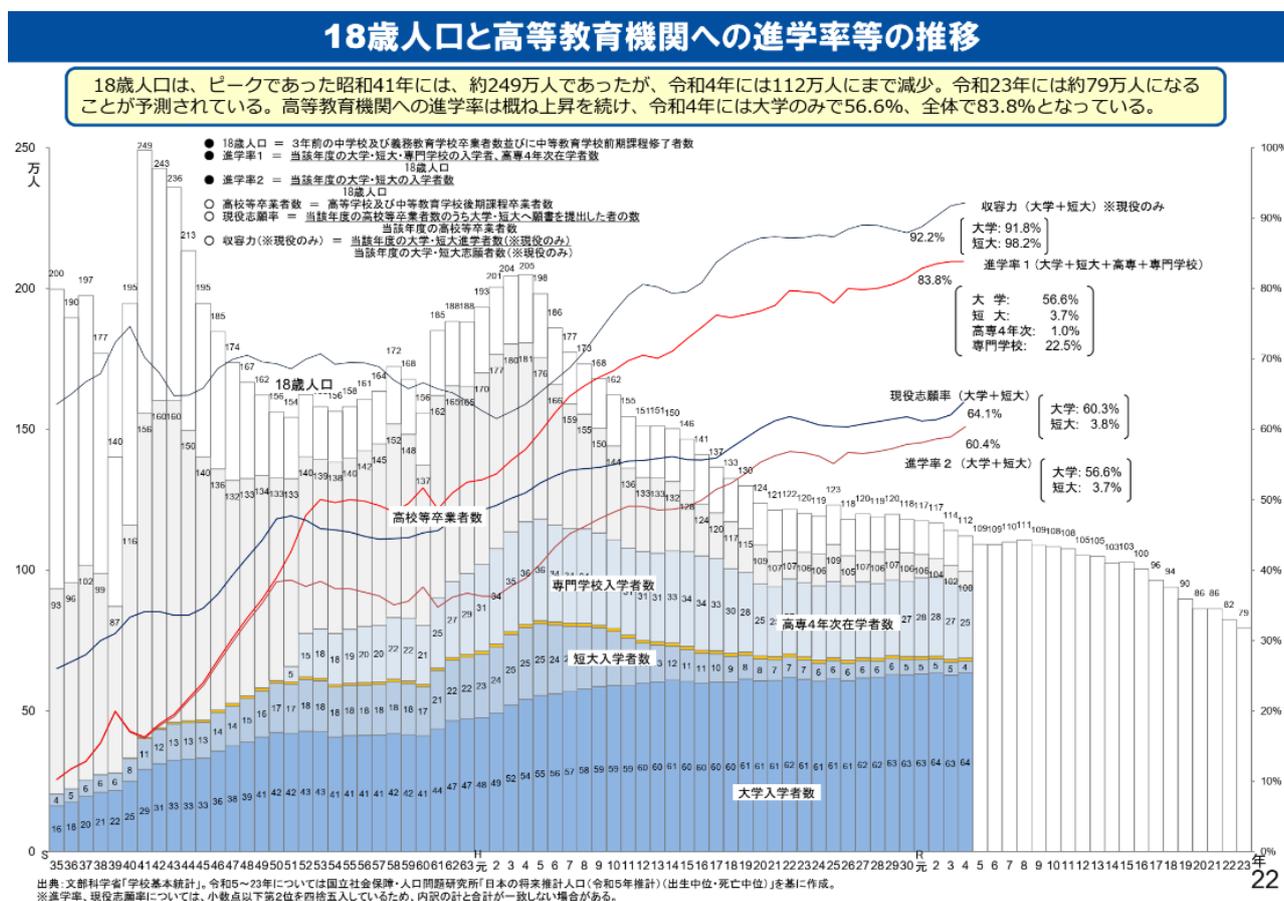
## 2. 全国的な大学設置をめぐる動向と調査分析

### (1) 大学の現状と課題

#### ① 高等教育をめぐる環境の動向

##### i) 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

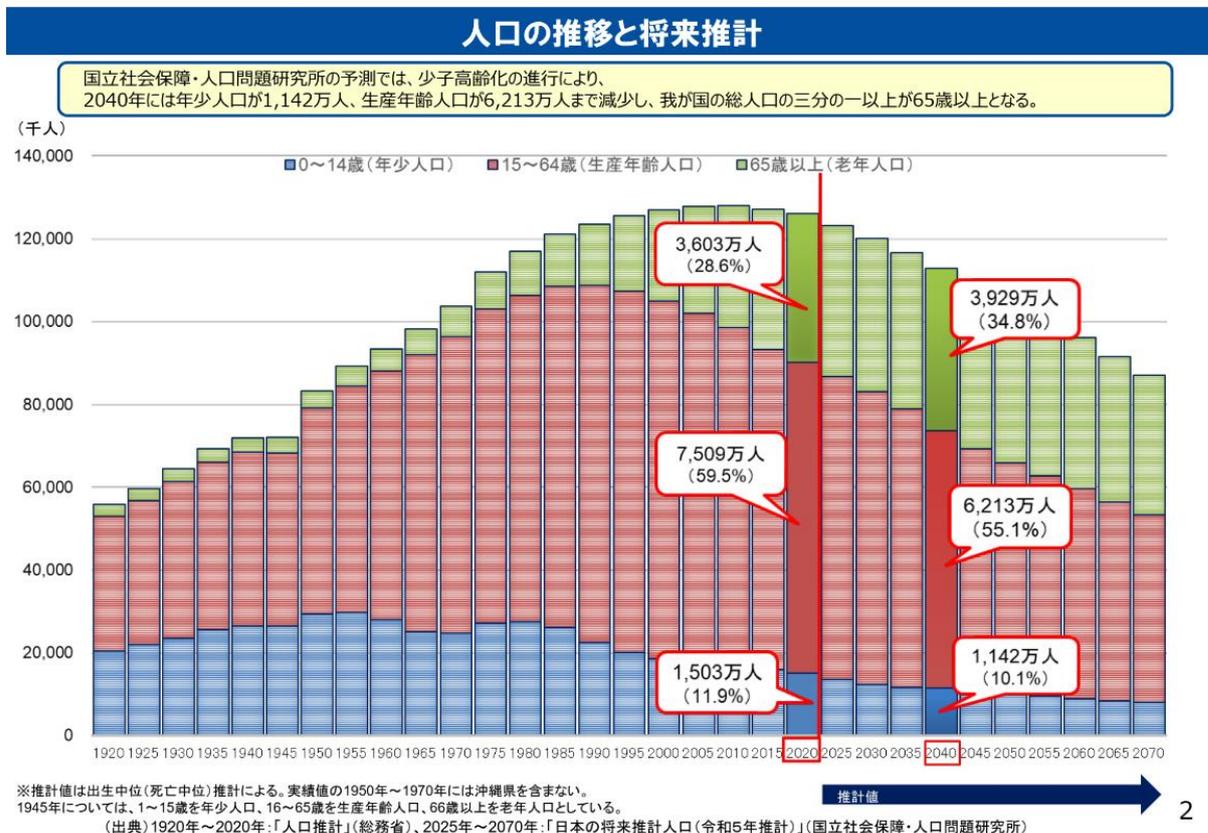
18歳人口は、ピークであった昭和41年には、約249万人であったが、令和4年には112万人にまで減少。令和23年には約79万人になることが予測されている。高等教育機関への進学率は概ね上昇を続け、令和4年には大学のみで56.6%、全体（大学・短大・高専4年次、専門学校）で83.8%となっている。



R5.11.29 中央教育審議会大学分科会 高等教育の在り方に関する特別部会(第1回) 会議資料 参考データ集(令和5年11月29日版)より

ii) 人口の推移と将来推計

国立社会保障・人口問題研究所の予測では、少子高齢化の進行により、2040年には年少人口が1,142万人、生産年齢人口が6,213万人まで減少し、我が国の総人口の三分の一以上が65歳以上となる。



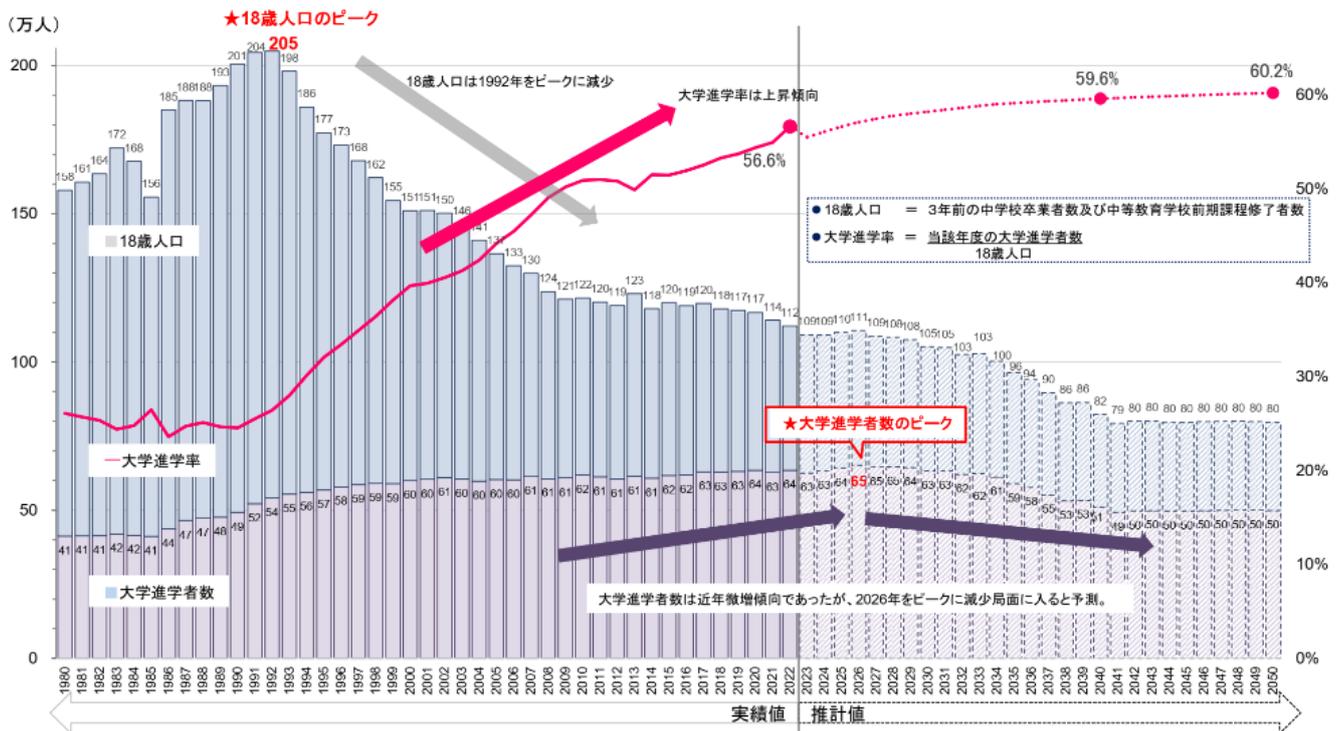
出典：R5.11.29 中央教育審議会大学分科会 高等教育の在り方に関する特別部会（第1回）  
 会議資料 参考データ集（令和5年11月29日版）より

iii) 大学進学者数等の将来推計【推計結果】

18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2026年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測される。

大学進学者数等の将来推計について

18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2026年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測される。



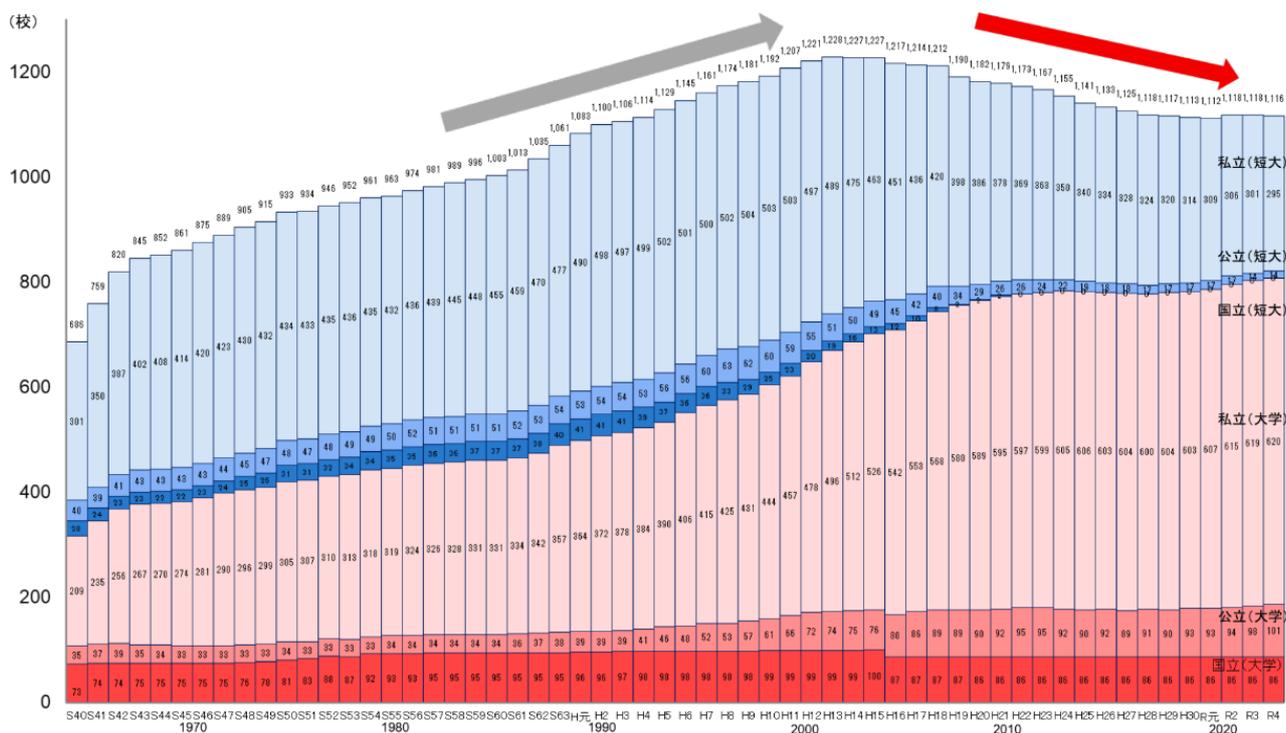
出典：R5.11.29 中央教育審議会大学分科会 高等教育の在り方に関する特別部会（第1回）  
会議資料 参考データ集（令和5年11月29日版）より

iv) 大学・短期大学数の推移

四大化や廃止により短期大学数は減少。平成14年以降は全体的に四大・短大の合計数も減少傾向である。国立大学数は平成16年の国立大学法人化の際、同一県に所在する国立大学と国立医科大学の統合等により減少したものの、平成16年以降はほぼ横ばいとなっている。

大学・短期大学数の推移

- 近年の主な傾向として、四大化や廃止により短期大学数は減少。
- 平成14年以降は全体的に四大・短大の合計数も減少傾向。国立大学数は平成16年以降ほぼ横ばい。



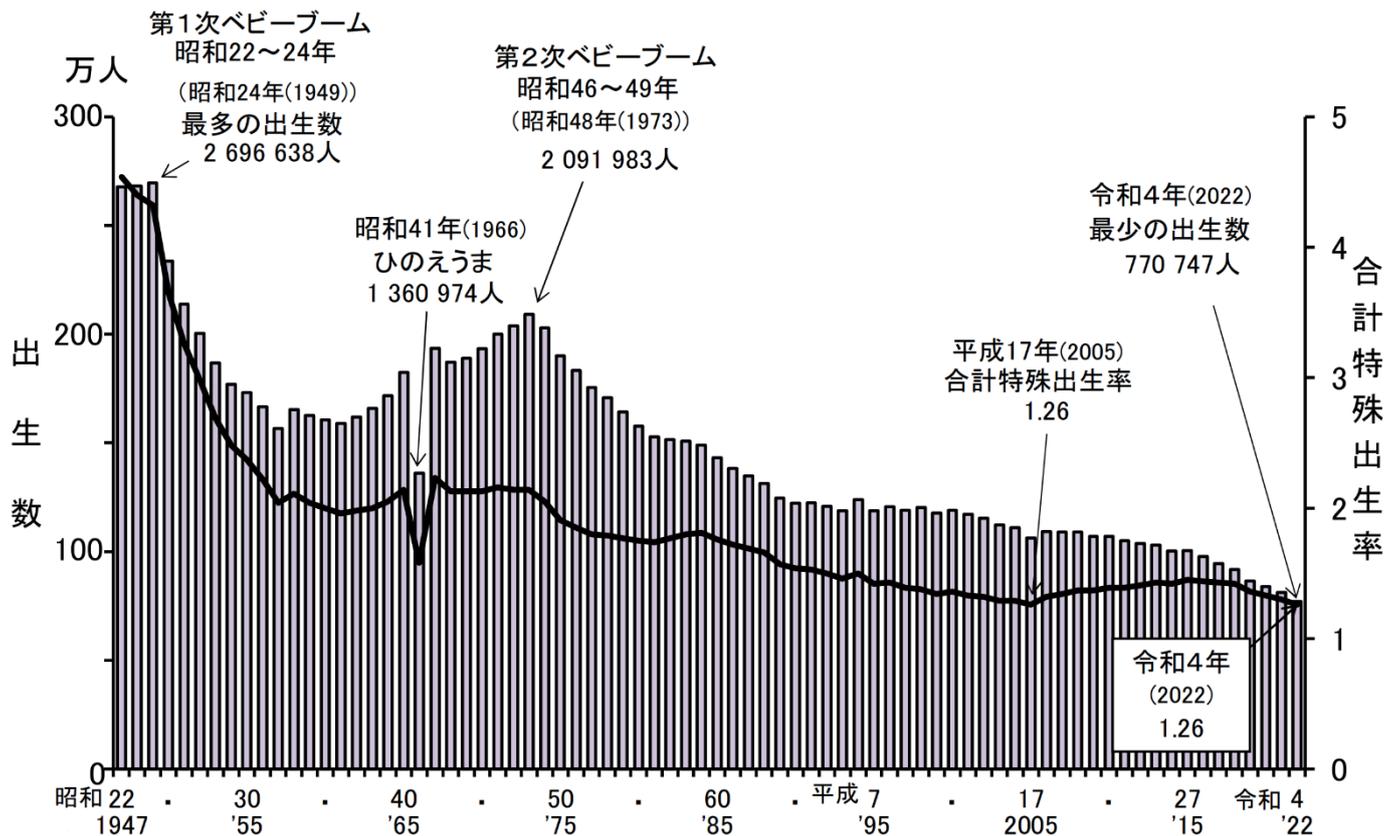
※学生募集停止の学校も含む。  
※通信教育課程のみ置く学校は含まない。

出典：R5.11.29 中央教育審議会大学分科会 高等教育の在り方に関する特別部会（第1回）  
会議資料 参考データ集（令和5年11月29日版）より

v) 人口動態の推移

2022年の出生数は77万747人で過去最少であり、前年の81万1622人より4万875人減少している。

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



出典：令和4年(2022)人口動態統計月報年計

# 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

## vi) 都道府県別大学（学部）進学率の変化

都道府県別の過年度卒業者等も含む大学（学部）進学率は、地域によって差があるが、2007年と比較すると全体的に上昇している。

全国平均 2007（H19）年：47%⇒2022（R4）年：57%

三重県 2007（H19）年：43%⇒2022（R4）年：47%

### 都道府県別大学(学部)進学率の変化(過年度卒業者等を含む)

都道府県別の過年度卒業者等も含む大学（学部）進学率は、地域によって差があるが、2007年と比較すると全体的に上昇している。



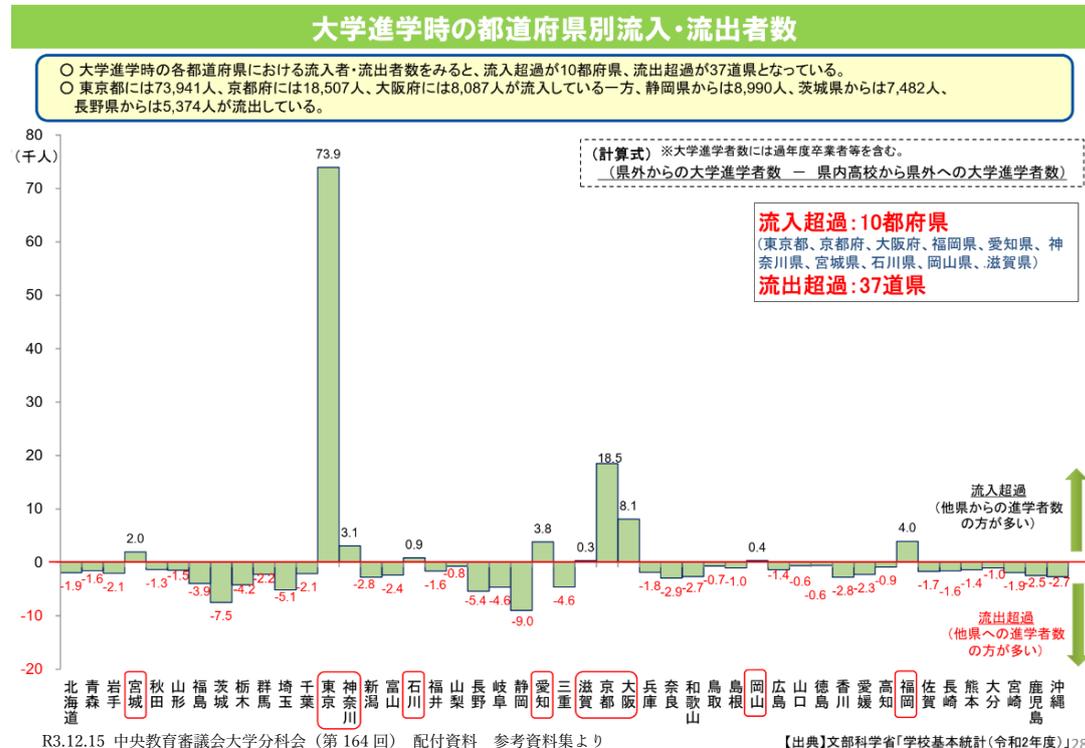
出典：R5.11.29 中央教育審議会大学分科会 高等教育の在り方に関する特別部会（第1回）  
会議資料 参考データ集（令和5年11月29日版）より

# 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

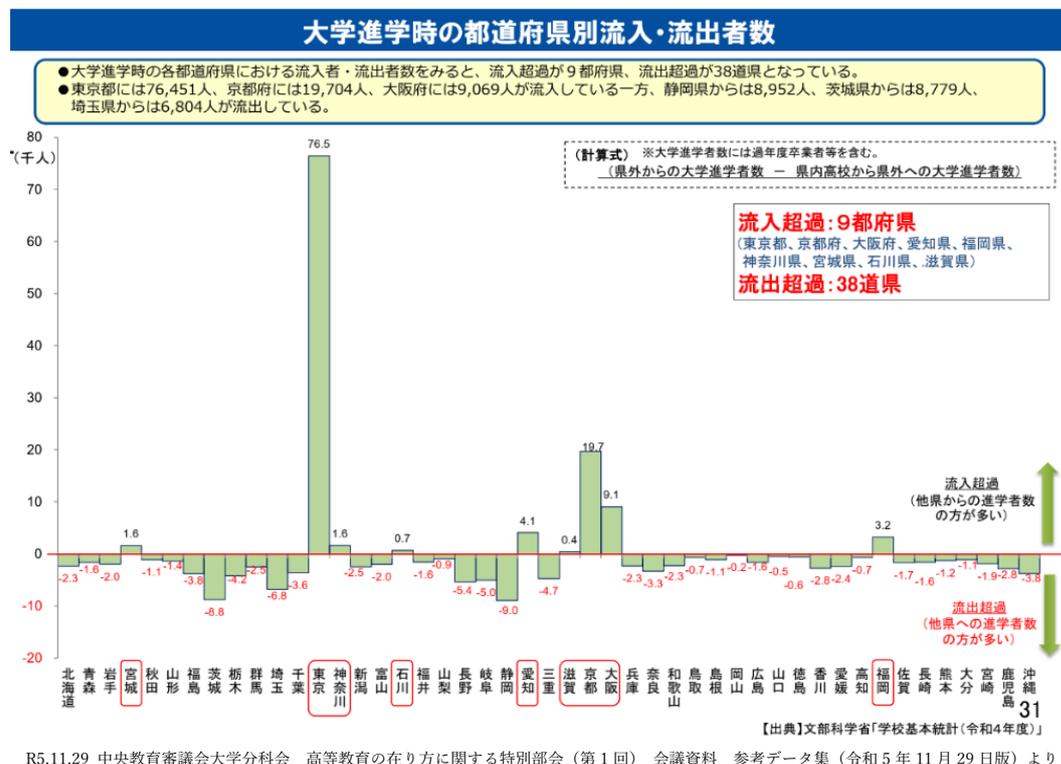
## vii) 都道府県別大学進学者流出入数差

三重県	2020年度	-4.6千人	愛知県	2020年度	+3.8千人
	2022年度	-4.7千人		2022年度	+4.1千人

2020（令和2）年度



2022（令和4）年度



②大学改革の状況

- i) 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」平成30年11月26日  
中央教育審議会

【2040年頃の社会変化の方向】

SDGs（持続可能な開発のための目標）、Society5.0・第4次産業革命、人生100年時代、グローバル化、地方創生

【必要とされる人材像と高等教育の目指すべき姿】

- ・予測不可能な時代を生きる人材像

- ：普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていく

- ：時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材

- ・学修者本位の教育への転換

- ：何を学び、身に付けることができたのか+個々人の学修成果の可視化

- ：学修者が生涯学び続けられるための多様で柔軟な仕組みと流動性

【高等教育と社会の関係】

知識の共通基盤、研究力の強化、産業界との協力・連携、地域への貢献

【教育研究体制】

多様な学生、多様な教員、多様で柔軟な教育プログラム、多様性を受け止める柔軟なガバナンス、大学の多様な「強み」の強化

- ii) 「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」教育未来創造会議  
第一次提言

【目指したい人材育成】

- ・未来を支える人材像

好きなことを追求して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

【高等教育で培う資質・能力】

- ・文理の壁を越えた普遍的知識・能力を備えた人材育成

- ・デジタル、人工知能、グリーン、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成

- ・理工系等を専攻する女性の増加（下記“vi）”詳述）

- ・修士・博士人材の増加

- ・全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備

- ・ 一生涯、何度でも学び続ける意識の涵養（下記“vii）”詳述）
  - ・ 年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備
  - ・ 幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化
- iii) 成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援
- ・ デジタル化の加速度的な進展や脱炭素の世界的な潮流は、これまでの産業構造を抜本的に変革するだけでなく、労働需要の在り方にも根源的な変化をもたらすと予想される。
  - ・ 一方、日本では大学で理工系を専攻する学生が OECD 平均より低いうえに、OECD 諸国の多くが理工系学部の学生数を増やしているなか、日本ではほとんど変わっていない。
  - ・ デジタル化、脱炭素化等のメガトレンドを踏まえた教育・人材育成における「成長と分配の好循環」を実現するため、高度専門人材の育成を担う大学・高専が予見可能性をもって大胆な組織再編に取り組める安定的な支援が必要。
  - ・ デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革に予見可能性をもって踏み切れるよう、新たに基金を創設し、機動的かつ継続的な支援を行う。
- iv) 未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ<J-MIRAI>（第二次提言）案  
教育未来創造会議 令和5年4月27日
1. 留学生の派遣・受入れ
- (1) 日本人学生の派遣  
日本人留学生の中長期留学者の数と割合の向上。大学院生の学位取得を推進。
- (2) 外国人留学生の受入れ  
高い志を有する優秀な外国人留学生の戦略的受入れを推進。受入れ地域についてより多様化を図る。
- (3) 外国人留学生の定着に関する目標  
日本国内での就職を希望する外国人留学生は6割強程度という調査結果もある中、留学生の卒業後の国内就職率6割を目指す。
- 上記に関する図表（「第二次提言」p16（3）、参考資料308枚目）を掲載する予定です。
2. 留学生の卒業後の活躍のための環境整備

海外派遣後の日本人留学生の就職円滑化を推進。外国人留学生の卒業後の定着に向けた企業受入れや起業の推進。

3. 教育の国際化

多様な文化的背景に基づく価値観を持った者が集い、理解し合う場が創出される教育研究環境や、高度外国人材が安心して来日できる子供の教育環境の実現。

v) 地域における大学等の連携・統合の促進に向けた方策

- ・人口減少がより急速に進むこれからの20年間においては、地方における質の高い教育機会の確保が大きな課題
- ・地域連携プラットフォームの構築：地域の国公立大学、地方公共団体、産業界等が一体となった恒常的な議論の場の構築。
- ・大学等連携推進法人の認定制度：各大学が強みや特色を生かしつつ、一定の地域や特定分野で他大学等と連携・協力して教育等に取り組む。

上記、大学等連携推進法人に関する図表を掲載する予定です。

vi) 現在女子学生の割合が特に少ない理工系などの分野の学問を専攻する女性の増加（前掲「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」教育未来創造会議、「III. 具体的方策」）

- ・初等中等教育段階では理数リテラシーに関して高いポテンシャルを有するにもかかわらず、諸外国に比べ理工系の学生の割合は著しく低い水準にあり、特に女子が理工系を専攻しないという実態がある。
- ・今後、このような状況を生み出す諸要因、例えば早期の文理選択やジェンダーバイアスなどを排除し、大学でのジェンダーパリティをさらに進めていくことが必要である。
- ・データとして、大学の学部段階で理工系を専攻する女性は7%にとどまっております、男性の28%に比べると低い状況にある（文部科学省「学校基本統計（令和3年度）」）。また、理工系学部への進学者は同年代の女子全体のうち3%に過ぎず（文部科学省「学校基本統計（令和元年度、令和3年度）」）、特に大学学部の女性入学者に占める理工系分野への入学者は7%であり、OECD平均（15%）に比べても大幅に低い状況にある（OECD.stat「New entrants by field」）。

上記に関する図表（「第一次提言」参考資料129、130枚目大学学部への女性入学者に占める理工系分野の女性入学者の割合、大学で理工農系を専攻する女性数、割合）を掲載する予定です。

vii) 学びなおし（リカレント教育）を促進するための環境整備（前掲「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」教育未来創造会議）

・日本の中小企業の多くが自社の研修プログラムを保有していないにもかかわらず、企業が大学等を活用せず、リカレント教育が進まない理由として、企業に大学のプログラムが知られていないことや、企業が本業に支障が出ると考えていることが挙げられる。他方、学び直しの経験がない人のうち、8割以上は今後、学び直しを希望しているか、興味を持っている（文部科学省委託調査「EBPMをはじめとした統計改革を推進するための調査研究－社会人の学び直しの実態把握に関する調査研究－（株式会社エフオーズ）」（令和元年度）より）。

⇒産学が連携し人材ニーズに応えるプログラムの構築、提供

⇒働く人が学び直しの機会を柔軟に得られるよう、時間・財源等個人への支援

⇒企業へのインセンティブの付与（補助金、税制上の優遇措置）

⇒柔軟な教育・学位認定を可能とする制度改正（単位の蓄積、柔軟な授業形態等）

⇒多様な学び方が選択できるよう高等教育のDX推進

上記に関する図表（「第一次提言」参考資料167枚目学び直しが必要・したいと考える社会人）を掲載する予定です。

また経済団体の提言等（一社）日本経済団体連合会2022年1月18日新しい時代に対応した大学教育改革の推進－主体的な学修を通じた多様な人材の育成に向けて－等）も検討中です。

### (2) 全国、三重県の大学進学の実況と動向

#### ①全国の大学進学の実況と動向

上記、2. 全国的な大学設置をめぐる動向と調査分析、(1) 大学の現況と課題、①高等教育をめぐる環境の動向と項目と記載内容を紹介しつつ、経年変化に触れる内容を記載予定です。

vi) 都道府県別大学（学部・短大）進学率の変化

全国平均 2005年：50%⇒2019年：56%

三重県 2005年：49%⇒2019年：49%

#### ②三重県における大学進学動向

上記、同様。

vi) 都道府県別大学（学部・短大）進学率の変化

全国平均 2005年：50%⇒2019年：56%

三重県 2005年：49%⇒2019年：49%

三重県の大学に関する状況について、「令和4年度学校基本調査報告書」（文部科学省）によると、

大学進学率（大学進学者数（過年度高卒者を含む）/18歳人口×100）は、46.7%で全国32位（全国平均は56.6%）。

大学残留率（当該地域所在の高校から当該地域所在の大学への進学者数（過年度高卒者を含む）/当該地域所在の高校からの大学進学者数（過年度高卒者を含む）×100）は、21.7%で全国35位（全国平均は43.7%）

であり、三重県内の高校から三重県内の大学への進学者が少ない。

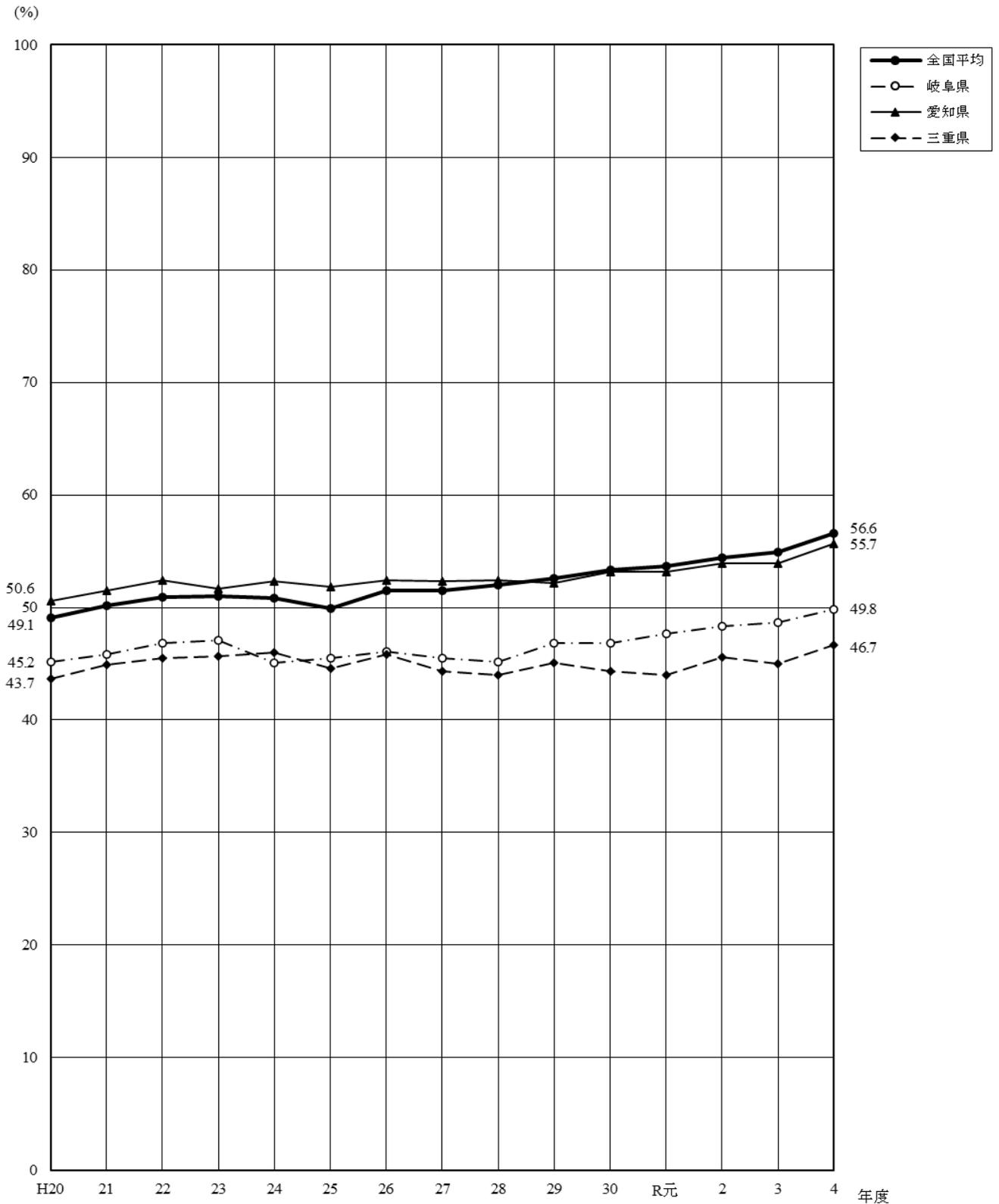
大学収容率（当該地域所在の大学への入学者数/当該地域の18歳人口×100）（出典：「令和4年度学校基本調査報告書」（文部科学省））は、18.6%と全国最下位である（3,143名/16,894名・47位）。（全国平均は56.6%）

であり、三重県内における大学数が全国に比べ少ない状況にある。

以上から、三重県では身近に大学を含めた高等教育を受ける環境が少なく、また学びの分野も限定されることにより、大学選択の幅が狭くなっており、JR四日市駅前に高等教育環境が整備され、三重県内の既存の大学にない分野を配することとなれば、本市のみならず三重県含めた広範に、有用な高等教育機会を提供することができる。

# 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

図表 東海地域の大学進学率

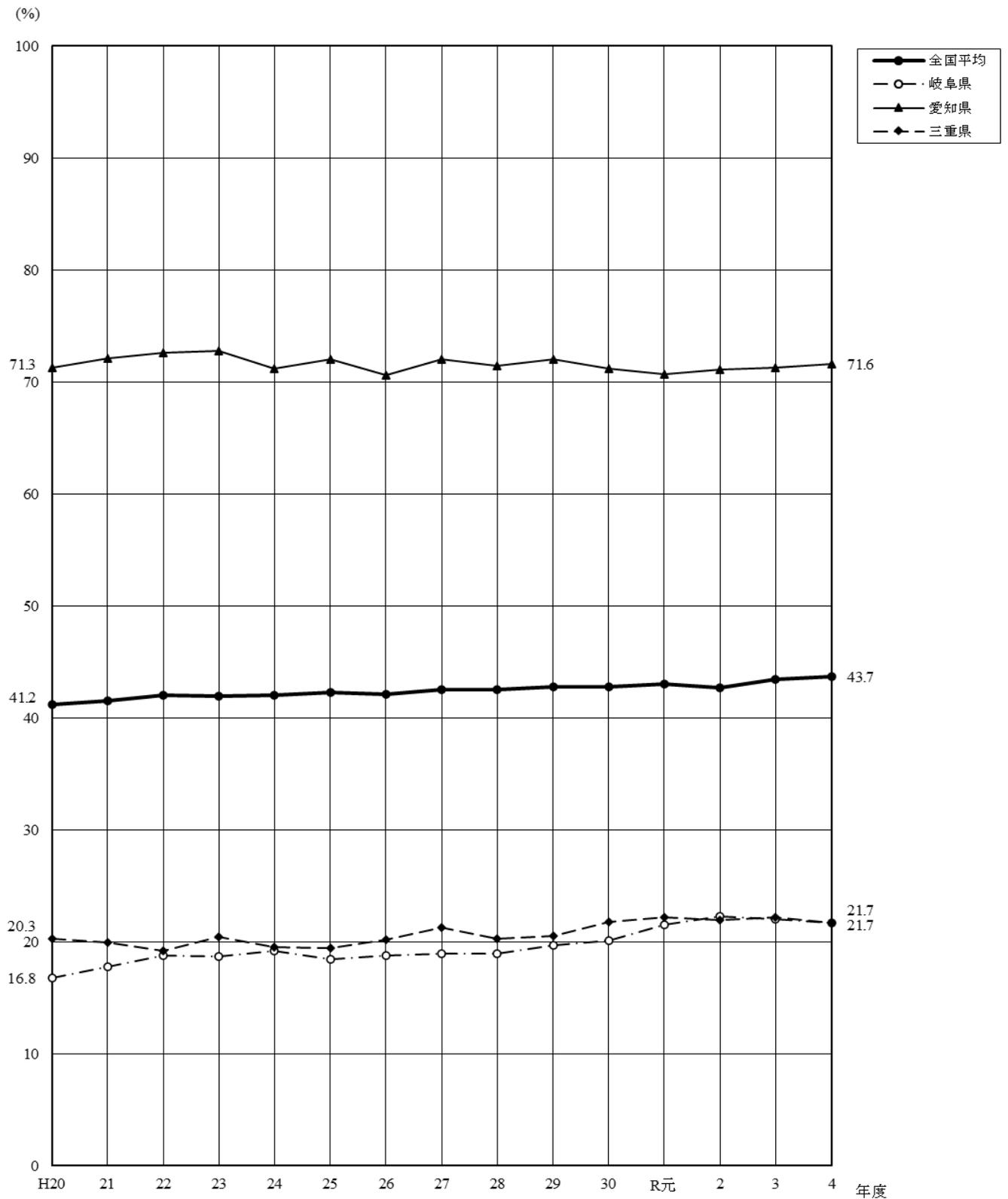


大学進学率(%) = 大学進学者数 (過年度高卒者を含む) / 18歳人口 × 100

資料: 「学校基本調査報告書」 (文部科学省)

# 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

図表 東海地域の大学残留率

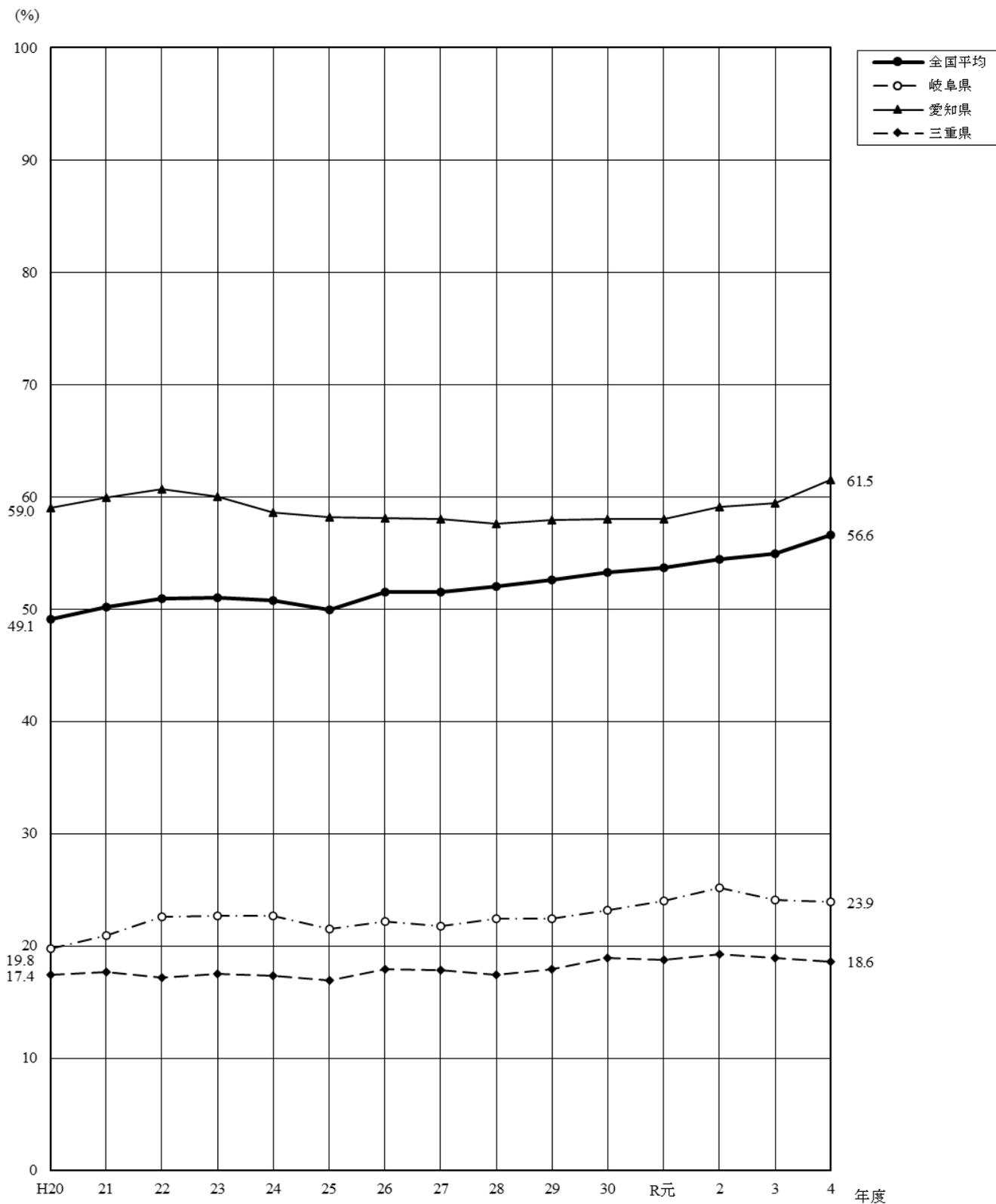


大学残留率(%) = 当該地域所在の高校から当該地域所在の大学への進学者数(過年度高卒者を含む) / 当該地域所在の高校からの大学進学者数(過年度高卒者を含む) × 100

資料：「学校基本調査報告書」(文部科学省)

# 第1章 四日市市及び四日市市を取り巻く状況

図表 東海地域の大学収容率



大学収容率(%) = 当該地域所在の大学への入学者数 / 当該地域の18歳人口 × 100

資料：「学校基本調査報告書」(文部科学省)

## 第2章 大学設置の検討に向けたニーズ等調査

---

### 第2章 大学設置の検討に向けたニーズ等調査

1. 市内および北勢地域の企業を対象としたアンケート
2. 市内および北勢地域の企業の若手社員を対象としたアンケート

### 3. 市内企業ヒアリング

今後、第3回委員会の報告事項の内容を記載する予定です。

### 4. 大学生ヒアリング

### 5. 近隣高校進路指導教員ヒアリングについて

### 6. 他大学調査等について

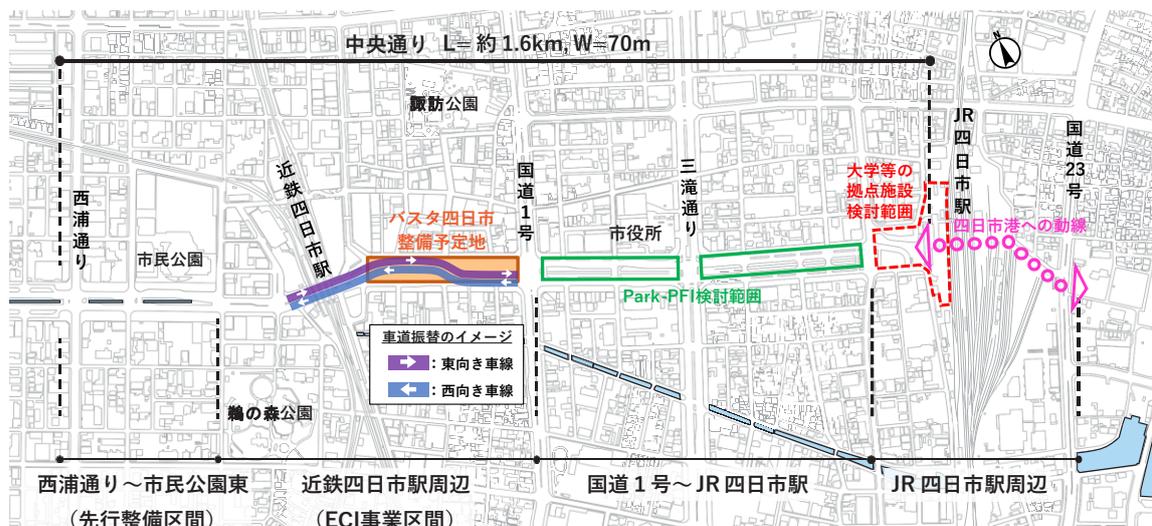
### 7. 「大学・高専機能強化支援事業」選定結果等について

### 第3章 大学設置に関する基本的な方針

#### 第3章 大学設置に関する基本的な方針

##### 1. 大学の整備について

###### (1) 整備エリアについて（「ニワミチよっかいち」中央通り再編基本計画より）



###### (2) 本エリアにおいて整備を検討している機能

本エリアでは、国によるバスタ四日市の整備をはじめ、中心市街地再開発プロジェクトとして、ニワミチ空間（グリーンインフラ、ウォークブルな空間）、図書館、Park-PFIを活用した物販・飲食施設、アーバンスポーツ施設等の整備が予定されている。

これにより、ニワミチ空間の大学キャンパスとしての利用や、近鉄四日市駅前に整備予定の図書館と大学図書館との連携、さらに、中央通りにおける高速・大容量通信ネットワークの整備による大学・企業とのネットワーク連携等が期待される。

### 第3章 大学設置に関する基本的な方針

JR 四日市駅周辺



みなとの雰囲気に出会うターミナル空間



※樹木の本数は正確ではなく、樹木配置のイメージを模式的に表現しています  
 ※緑地の形状は、今後ランドスケープの検討により変更の可能性あります

#### ③ 港の雰囲気に出会う空間の演出

— 市民が多目的に活用できる空間

- 多目的な活用に対応した設えとすることで、市民の使いやすさの幅を広げる
- 将来的な可変性を担保した設えとする
- JR 四日市駅周辺には、大学等の拠点施設の導入を別途検討する

JR 四日市駅前は、近隣の市町のみならず、路線広域の学生にとっても通学しやすい貴重な立地である。

独立行政法人日本学生支援機構の令和2年度学生生活調査結果によると、大学の自宅からの通学者の片道通学時間は「61～90分」が回答の2番目に多い29.2%となっており、90分以内が一つの目安とされている。

JR 四日市駅前に大学が整備された場合、90分以内の範囲に、南勢地域、伊賀・名張地域が含まれ、三重県内の多くの地域をカバーすることができ、また、愛知県、岐阜県の一部も通学圏となり、県外の学生も呼び込むことができる。このことから、東海圏における高等教育環境に貢献できるとともに、企業との連携やリカレント教育の拠点とすることが可能となる。

#### ○片道通学時間

[単位:%]

区分		0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上
大学 (昼間部)	自宅	1.9	5.2	8.8	31.5	29.2	17.7	5.7
	学寮	65.2	19.9	7.6	6.2	0.7	0.3	0.1
	アパート等	42.8	35.8	11.5	7.6	1.7	0.4	0.2

出典：(独法)日本学生支援機構「令和2年度学生生活調査結果」

#### (3) 校地校舎・設置形態等について

校舎について、通常求められる機能を充実させることに加え、各種連携を行う。具体的には複数大学、高専、企業との研究等を JR 四日市駅前の同一の建物にて行うことにより相乗効果が見込まれる。

設置形態については、複数の大学で構成する大学等連携推進法人（大学コンソーシアム）や、大学間連携を促進する等、従来の単一大学のみで整備・運営することにとられずに計画を推進する。

また、大学間連携にあたっては、共同研究や実践教育に資する共同利用拠点の整備も検討していく。

さらに、校舎の他の施設については、JR 四日市駅前に今後整備される各施設を始め、まちをキャンパスとして活用し、社会に開かれた大学となることが期待される。

### 2. 四日市市に設置する大学および人材養成の方針

#### (1) 設置する大学の基本方針

##### i) 多様性を重視し、既設大学にはない特色を持つ大学

全国や海外から見て魅力のある大学、学生から選ばれる大学に向けて、地域資源を最大限に活用して教育研究を遂行する体制を整備する。学生及び教職員において国籍・年齢・性別の多様性を重視し、地域社会との関わりの中で、異文化理解を基本として学びあい、対話を重ねて協働で課題に取り組む経験を積むことで基盤的能力を養成し、さらに海外の企業、研究機関、大学等との連携、人的交流、国際交流や国際的な研究活動を推進する。

##### ii) 地域連携・産学連携を推進し、地域企業とともに発展する大学

製造業が集積する三重県北勢地域の特性を活かし、四日市市を拠点として、地域連携・産学連携を取り入れた教育研究を行い、企業との共同研究を推進する。学生と地域及び産業や企業との関わり・理解を深め、卒業後も地域及び大学とつながる仕組みを創出する。

##### iii) 高度な研究力・探求力の育成～大学院を含む設置計画～

学部を基礎として大学院（修士課程、博士課程）を設置し、高度な教育研究機能を有し、地域企業との共同研究開発を推進する。学部4年間+修士課程2年間の6年間の体系的な学習を通じ、高度な専門的能力を養成する。研究開発部門を始め、地域企業への就職を目指す学生を育成する。

##### iv) 大学間連携を推進し、教育資源を共有して効率的な運営を行う大学

交通至便な JR 四日市駅前の立地の特性を活かし、県内及び東海地域の大学や高等専門学校と積極的に連携し、学生及び教員等研究者の相互交流を図る。特別教員の招へい、連携大学同士のオンライン授業や共同研究を推進する。

#### v) 地域の学習の中核としての機能を有し、生涯学習の推進に寄与する大学

地域の幼小中高校におけるものづくり教育、キャリア教育、科学教育との連携を図るとともに、産業界と教育現場をつなぐ拠点としての機能を有する。さらに地域企業で働く社会人のリカレント教育を実施し、地域における生涯学習機関としての役割を担い、地域に開かれた大学として地域社会に貢献する。

#### 【参考：委員会内での発言】

- ・四日市市には企業の研究開発部門に所属しているトップクラスの研究者が多数おり、そのような環境の中、産学連携をさらに加速させるようなプラットフォームを官民一体で構築する。
- ・企業側は大学院修了の人材を求めている背景がある。高度な人材育成には大学院も含めた教育が必要。
- ・今までの大学に無い特色を持った大学、日本全国や海外から見て魅力的な大学。
- ・学生（ユーザー）の立場に立って、今までにない新機軸の大学を打ち出したいという理念を前面に押し出せるようにしていく。
- ・海外からも学生を呼べるようなブランド力をつける。
- ・海外、日本全国の学生にとって魅力的な大学ができて、学んだ学生が海外や日本に他地域に出ていき、結果としてその一部の学生も四日市に定着するようなシステム作りが大切。
- ・例として、アメリカのミネルバ大学は、キャンパスが無く、学生たちは世界7都市を巡りながら社会活動と称したプロジェクトを学生が運営するという極めて珍しいモデル。ミネルバのもう一つの特徴として、オンラインで授業を受ける際、教員が一方向的に講義する時間がとても限られていて、ほとんどが学生のディスカッションになり、そこで鍛えられた学生が、世界をリードするという、かなり尖りすぎたイメージはあるが、特色があるという意味においては一つのモデル。
- ・6年一貫のコースを設置、総合知・探求心を養成。大学院に行かないと、なかなか科学、情報、経営などへの誘導はできない。多様性に対してどのようにコースを作っていくか 4, 5, 6年生が地域企業と一緒に研究や開発を行う仕組み
- ・博士課程まで持つ高度な研究力、博士課程は他大学からも学生を呼び込めるレベルの高さも必要、マスターと比してレベルを上げたドクターの養成が必要。
- ・産業界へドクターコースの学生を輩出する工夫

#### (2) 人材養成の方針

##### ① 「予測不可能な時代を生き抜く人材」

- i) 環境や社会および技術の変化に柔軟に対応するための総合的な知の教養、高い英語力、専門分野の基礎知識、コミュニケーション能力、自ら考え行動する力等を身に付ける。

### 第3章 大学設置に関する基本的な方針

ii) 地域社会の理解とともに世界的な情勢を理解し、広狭両面の視座と因果関係を考察する能力を養う。

iii) 四日市市及び三重県において将来的に地域をけん引し、新たな技術や産業の創出を目指し、イノベーションを実現させるための探求力・実行力を養う。

#### (3) 想定される教育研究分野

①四日市市の産業構造(注)をふまえ、技術とものづくりを核とした理工系分野

②デジタル・グリーンなどの成長分野をけん引すると共にデザイン思考・ビジネス思考を併せ持つ高度専門人材の育成に向けた、理学、工学、情報学等の分野

(注：四日市市の産業構造は半導体等の電子部品・デバイス・電子回路製造業、化学工業、石油製品製造業等が主。

(「四日市市の工業」より))

#### 【参考：委員会内での発言】

・四日市市のエリアだけでなく中部圏、東海圏をみて、必要な分野の人材育成を行うとよい。

・実践的なものづくりができるエンジニアに対しての強いニーズがあり、実践的なものを試作、評価できるスキルはとても大切

・技術・ものづくりを核としながらも、やはり異分野融合で、ビジネスを含めた勉強もできるような学校にしていけないといけない。「理系」「工学部」という言葉を使わないほうがいいのでは。

・大学院も加味した上での大学設置ということを考えると、学部という言葉に限定しないほうがいいかもしれない。企業側は大学院修了の大学院卒の人材を求めている背景があるなら、学部だけに限定しない表現のほうがいいのではないか。

・6年一貫のコースを設置、総合知・探求心を養成。大学院に行かないと、なかなか科学、情報、経営などへの誘導はできない。多様性に対してどのようにコースを作っていくか 4, 5, 6年生が地域企業と一緒に研究や開発を行う仕組み

#### 3. 四日市市に設置する大学の教育研究方針

①「知識の共通基盤の確立と実践力の養成」

i) 学習者自ら能動的に学ぶことによる幅広い教養・知識の涵養、STEAM教育を基盤としたプロジェクト型教育を推進する。

ii) 論理的思考に基づき、専門性を実践的な課題解決につなげることのできる教育研究を行う。

iii) 学部1、2年次の集中した英語教育、異文化理解教育を基盤に、英語による対話・交渉力を養う。

- ・異文化を理解し、多様性を受容し、視野を広げ、自ら思考する力を身に付けるための教養教育科目配置と STEAM 教育
- ・1、2年次の対面授業による人間関係形成、ものづくりに触れるハンズオン教育、グループで課題に取り組むプロジェクト学習の導入を行い、基盤的能力を形成する。
- ・基盤的能力をふまえ、3年次以降は多様な学びの機会を確保するため、国内外の大学の高度なオンライン授業の受講や地域の連携企業の現場へ赴くプロジェクト学習を導入し、課題解決に向けた卒業研究を実施して実践力を養成する。
- ・海外への企業展開、外国人との交流、研究活動の国際化の進展に対応できる高度な英語力、対話力、交渉力を養成する。
- ・県内企業の海外事業所でのインターン実習などを積極的に開拓する。
- ・上級生によるティーチングアシスタントの活用、学生同士の学びあいを推進する。

#### 【参考：委員会内での発言】

- ・海外企業や外国人に対しても対等に意見を伝えることができる人材育成
- ・異文化、多様性を実感できるような教育
- ・英語で授業を受講できる高度な英語力を養成し、海外大学のオンライン授業で単位取得する。海外人材との交流、対話力、交渉力の養成
- ・1年次、2年次は対面授業による関係性構築やハンズオン・ものに触れる実践教育、協働 PBL を実施、3年次以上でオンライン活用など、学生の成長に応じた教育方法
- ・Project Based Learning のようなものを、数人で集まって、実践的にどう解決するかを自分たち自身で考えるような経験をさせるようなプログラム
- ・単位取得を認定して、海外の著名大学の教授に特設講座を持ってもらう高度な教育
- ・普通の講義を受けて学習しただけでなく、研究室において何かを一生懸命突っ込んでやったという経験を評価

#### ②「地域および産業界との協力・連携を活用した教育研究」

- i) 地域企業、行政等との関わりを通じて、実社会の課題解決に取り組む実践的教育を実施する。
- ii) 大学の資源や教育研究成果を活用し、企業活動や地域活動を支援する。

- ・地域企業と連携するプラットフォームを活用して、企業の課題解決に取り組む Project Based Learning を地域企業と連携して実施することで応用力、実践力、行動力を養成するとともに学生の地域及び企業理解を深める。
- ・自治体、企業との共同研究を積極的に実施し、大学の教育研究資源を活用しながら共同で課題テーマを探究する。
- ・自治体や企業からの実務家教員の登用を図る。
- ・小中学生を対象とした実験教室の開催など、学生が主体性を持って地域活動に関わる機会を創出する。

#### 【参考：委員会内での発言】

- ・地域産業界と実践的に連携してイノベーションを起こすこと。産業界からのニーズに対応し、四日市市の産業構造に合った人材、産学連携の加速、産学連携のプラットフォームの形成（再掲）
- ・県内の小中学校キャリア教育、高校との連携、企業体験、ものづくり教育の体験を通じた幼小年期からの継続した理系教育の拠点（再掲）
- ・地域の高校における女子の理系教育重点化との連携

#### ③ 「学生及び教員の編成における多様性を活かした教育研究」

- i) 学生：従来の18歳で入学する日本人学生のみならず、高専からの編入学生、企業等で働きながら学ぶ社会人や高い志を有する優秀な外国人留学生を積極的に受け入れ、国籍、年齢、性別の異なる学生同士が互いに刺激を受けるとともに協働的な教育活動を実施する。
- ii) 教員：高度な専門性を有する教員を配置するとともに、ダイバーシティを重視し、実務家、若手、女性、外国籍などの多様な人材を登用する。

- ・大学の特色として、留学生を積極的に受け入れ、交流を図り、教育研究実施組織もダイバーシティを重視して外国人・女性・社会人を積極的に登用し、異文化・多様性を実感する教育環境を形成する。
- ・海外大学のオンライン授業の受講や他大学との連携などを活用して教員の多様性を確保する。
- ・国際的な知名度のある教員を招聘し、優秀な留学生の確保につなげる。
- ・企業との共同研究開発に積極的な優秀な教員を確保する。
- ・実践的教育を担う教員には実務家を積極的に採用し、産業界との連携を図る。

- ・教員の評価体制には論文業績の評価だけでなく実践教育や実績の評価も加えた評価制度を整備する。

#### 【参考：委員会内での発言】

- ・留学生の積極的受け入れ
- ・四日市市が海外で交流している都市、四日市市にある企業群の海外取引先などに、例えば事務所を設置して留学生獲得や実習先の拠点とし、人事交流、国際交流、産業交流を推進。
- ・受け入れると分断を生むだけでもあり、受け入れてうまく活用するところまでつなげるといい
- ・ダイバーシティ、外国人や女性を意識した多様な教員の確保について、MOOC、外国の講義を積極的に活用する、近隣の三重大・大阪大の講義をオンラインで活用する、連携教員、大学同士の連携などの工夫を行う
- ・留学生は、ある大学、ある先生に教えてもらいたいという希望があって海外から日本に留学してくるため、特色をはっきりとわかりやすく伝える必要がある。
- ・高度な教員を集めるとともに産業界から新しい人材を積極的に取り込む仕組みが重要。
- ・論文評価だけでなく、産業界と一緒に実践教育をする、学生の教育に対しても熱心な教員に対しての評価制度も整える

#### ④「学修者本位の大学教育の実践」

- i) 学修者が学修の成果を実感し獲得することができ、その成果を今後自身が直面する課題等に応用・実践できる能力を養うための教育を行う。
- ii) アントレプレナー教育を実施し、知識や技術を応用して起業するチャレンジを支援する仕組みを構築する。

- ・企業集積の立地を活かし、学部1、2年次に実際にものづくりに触れるハンズオン教育を通じ、体験的な学びによる実践力を養成する。
- ・地域企業と連携した Project Based Learning を実施し、地域の課題・企業の課題に取り組む経験を通じて、必要な知識を得るための方法論と学んだ知識を応用して課題解決に取り組む実行力を養成する。

#### 【参考：委員会内での発言】

- ・1年次、2年次は対面授業による関係性構築やハンズオン、ものに触れる実践教育、協働PBLを実施、3年次以上でオンライン活用など、学生の成長に応じた教育方法（再掲）

### 第3章 大学設置に関する基本的な方針

- ・ Project Based Learning のようなものを、数人で集まって、実践的にどう解決するかを自分たち自身で考えるような経験をさせるようなプログラム（再掲）
- ・ 卒業後そのまますぐ企業で働けるような即戦力・実践力を育成する教育システムを構築
- ・ 実践的なものづくりができるエンジニアに対しての強いニーズがあって、実践的なものを試作、評価できるスキルはとても大切

#### ⑤新しい教育研究を実現する環境の整備

- i) ディスカッションやアイデアの創発、学びあいやコミュニケーションを容易にする多目的で可変的な協働スペースを持った学習環境を整備する。
- ii) 中心市街地再開発プロジェクトによって生まれるニワミチ空間をキャンパスとして活用する。
- iii) 企業との共同研究を実施する共同研究施設の整備。生涯学習の一環として人々がものづくりの現場に触れることができる学習環境を整備する。
- iv) 企業との共同研究の推進体制として、資金管理や契約書類作成、知財や権利関係の調整等を行う支援体制を整備する。

- ・ 研究成果の地域への還元、産業界との共同研究の推進、競争的資金の取得支援など研究支援体制を整備し研究環境を充実する

#### 【参考：委員会内での発言】

- ・ 学生時代に企業と一緒に研究や開発をやるという仕組みを四日市に作るべき。
- ・ 大学の敷地の中に大きな場所が取れるのであれば、企業が大学の中に建物を作り、そこを研究所として使う、その場所で学生も学んでいくようなこともできる。
- ・ 四日市の企業は、いろいろ研究開発部門を持っており、実践に近い、まだ工場化する手前の段階のものが多。四日市の研究開発立地支援補助金という仕組みを使って、企業と連携した研究開発部門をつくれる可能性はある。
- ・ 以前、コンビナートのすぐ隣に、企業の建物を、三重県と四日市で借りて、いろいろな企業や企業の研究所、地域との連携をしており、海外の企業にも入ってもらい、マテリアル系の研究を10年、20年とやっていた地域ならではの経験もある。